



2024
総合学域群
新歓

1C・1B

AZA

・委員長、副委員長挨拶——2
・各班長挨拶——3

履修・授業

・高校と大学の違い	5~6	・筑波大生のアルバイト事情	91~94
・履修登録フローチャート	7~8	・筑波大学のサークル事情	95
・筑波大学の授業システム	9~10	・年間スケジュール	96~97
・筑波大学で使う様々なシステム	11~14	・行事紹介	98~99
・単位・GPA・評点について	15~18	・分担当金回収のお願い	100
・授業の出席と成績評価方法	19~22	・留学について	101~103
・入学後に配られる移行に関する資料について	23~24	・つくばに来るならおすすめのアブリ	104
・移行についてこれだけはわかってほしいこと	25~30	・パソコン関連	105
・移行に関するアンケート	31~34	・大学循環バスについて	106~107
・筑波大で取得可能な資格について	35~43	・施設紹介	108~112
・専門導入科目レビュー	44~60	・学生組織紹介	113~114
・学類紹介	61~88		

つくばぐらし

・学生舎見聞録	117~127	・理転について	151~156
・グローバルレレッジ	128~131	・先輩からのメッセージ	157~158
・自宅通学について	132~133	・筑波大辞典	159~163
・アパートについて	134~135	・新歓 SNS	164
・帰省事情	136~138	・新歓イベント紹介	165
・自転車について	139~140		
・大学周辺の施設	141~149		

・編集後記・つぶやき——166

新歓・コラム

・新歓について	151~156
・先輩からのメッセージ	157~158
・筑波大辞典	159~163
・新歓 SNS	164
・新歓イベント紹介	165

委員長、副委員長挨拶

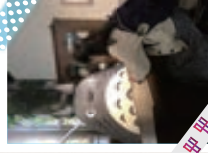
委員長 長田大器



はじめまして！！総合学域群新歓委員会委員長の長田大器です。まずは総合学域群への合格おめでとございます。これからみなさんが入学する筑波大学は今までに経験したことのないくらい自由な空間です。ひたすら自分の興味の興味のある学問を勉強するもよし、部活やサークルに打ち込むのもよし、はたまた毎日友達や自分の家で深夜までとんちやん騒ぎをするもよしと、好きなだけ自分のしたいことができる世界がみなさんを待っています。

我々新歓委員会はみなさんがこの自由な世界でより良い大学生活を送れるように全力でサポートしていきます。入学まで待ちきれなかったり、不安を感じる人もいるかもしれませんが、まずは入学までこのパンフレットを見て筑波大学そして総合学域群のことについてしっかりと勉強しておいてください。このパンフレットに載っている情報は必ず皆さんの大学生活に役立っはらずです。それでは大学生活、思う存分に楽しんでください！！

副委員長 神谷紗良



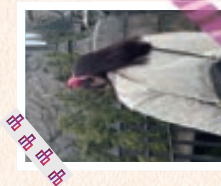
新入生の皆さんこんにちは！そしてご入学おめでとうございます。副委員長の神谷紗良です。総合学域群は、専門的な学問や今までと異なる体験を通じて自分を見つめ直せる場所です。何か少しでも困ったことがあったら、ぜひ私たちを頼ってください。新しい生活が始まる中で少しでも私たちがお役に立てたら幸いです。応援しています。

副委員長 桑原侑



副委員長の桑原 侑（くわはら ゆうと）です。皆さんが総合学域群に来てくださり、とてもうれしいです！大変なこともあります、総合は「可能性」のかたまりなので、やりたいことをやってみましょう。そして、困ったことがあれば先輩や大学職員の方に頼りましょう！みんな優しいです！私たち新歓委員もいつでもお話し聞きますよ～

各班長挨拶



イベント班長 加藤愛乃音

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。イベント班長の加藤愛乃音（あのん）です！総合学域群では、新入生同士の交流を深めるため、また、新生活への不安を和らげるための様々なイベントを準備していますので、ぜひご参加ください！皆さんが新生活を楽しくスタートできますように！！

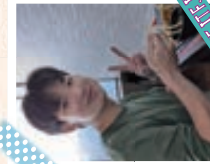
オリエンテーション班長 八尋優太

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます！オリエンテーション班長の八尋優太（やひろ ゆうた）です！総合学域群は他の学域と異なった特徴が多くあります。そのためみなさんが学生生活で困らないように私たちが全力でサポートします！ぜひ頼ってください！



パンフレット班長 高野正志

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！総合学域群の1年間で、勉強も頑張りがいらるんことに挑戦してみてください。どの選択肢を選ぼうか迷ったときは、面白くなりそうな方を選びましょう！皆さんの大学生活が実り豊かなものとなることを願っています！



メンバー

記事担当

金子陽友 向後克隆 小林岳広
長谷川遙人 原隆輔 松浦唯永
宮地優太

デザイン担当

岡本翔太 清重花奈
小島凜子 康永拳太

校正担当

塚本柊陽 八田辰之介 溝田光志



- ・高校と大学の違い—————5~6
- ・履修登録フローチャート—————7~8
- ・筑波大学の授業システム—————9~10
- ・筑波大学で使う様々なシステム—————11~14
- ・単位・GPA・評点について—————15~18
- ・授業の出席と成績評価方法—————19~22
- ・入学後に配られる移行に関する資料について—————23~24
- ・移行についてこれだけはわかっていてほしいこと—————25~30
- ・移行に関するアンケート—————31~34
- ・筑波大で取得可能な資格について—————35~43
- ・専門導入科目レビュー—————44~60
- ・学類紹介—————61~88

高校と大学の違い

文責
向後克隆

履修、授業

学生生活

つくばぐらし

新敏、コラム

Howdy！筑波大学へようこそ！苦しい受験戦争が終わり、これからは楽しい大学生活が始まります。人生の夏休みともいわれるように大学生活は自由度が高く、学生の自主性が尊重されます。具体的には、以下のような違いが挙げられます。

<時間割>

今までは、学生は教師が指定した時間割に沿って学習をしていました。時間割は元々決まっていたわけですが、大学では違います。大学生は自分の時間割を、自分で決めなければなりません。特に、総合学域群の学生は共通科目（外国語、情報など）を除けば、1年次での必修科目がありません。移行に必要な重点科目（成績点に大きく影響する科目）や、関心のある科目などを、自ら選んで履修することになります。ただし、1年次での必修科目がないとはいえ、2年次に移行先の学類が決まると、その学類の必修科目を履修しなければ卒業できないので注意してください。

<授業>

大学の授業で一定以上の成績を修めると、その証拠として大学から単位が与えられます。学生は大学を卒業するために、124以上の単位を集めなければなりません。小テストやレポートなどの課題と期末試験で総合的に評価したり、最終レポートのみで評価したり、単位認定の基準は科目ごとに異なります。

高校の教師は学生にモノを教えることを生業とする教育者です。一方、大学の教師は教育者である以上に研究者であり、学生は学問の最前線にいるの方の授業を受講できます。研究者は誰かが解いた謎を教えてくれるだけでなく、自力で謎を解いています。正解のない問いに対する姿勢は、生涯役立つ力に繋がるはずです。ぜひみなさんには、興味の赴くままに学問を深めてほしいです。

また、授業の形式も講義だけでなく、演習、実験、ゼミナールなど多彩です。例えば、専門導入科目の中には、オムニバス形式の授業があります。各回で授業を担当する教師が異なり、様々な分野について知ることができます。

<コミュニティ>

大学には、高校のように自分の机や教室が存在しません。春A開設の「ファーストイヤーセミナー」では、20人前後のクラスで集まり授業を受けますが、それ以降クラスで集まる機会は少ないです。一人ひとりが各自の時間割で行動するのが基本となります。広大なキャンパスの中で孤立しないように、積極的にまわりの人とコミュニケーションをとり、関われる人を増やすことが大切です。

高校と大学の違いは、入学してから自分で体感できるでしょう。ただ、少なくとも大學生活では自分の好きなことを好きなだけやれる、ということは確かです。自由な時間を上手に使って、多くのことに挑戦してほしいと思います。一度きりのキャンパスライフを楽しみましょう～！！

履修、授業

学生生活

つくばぐらし

新敏、コラム

履修登録フローチャート

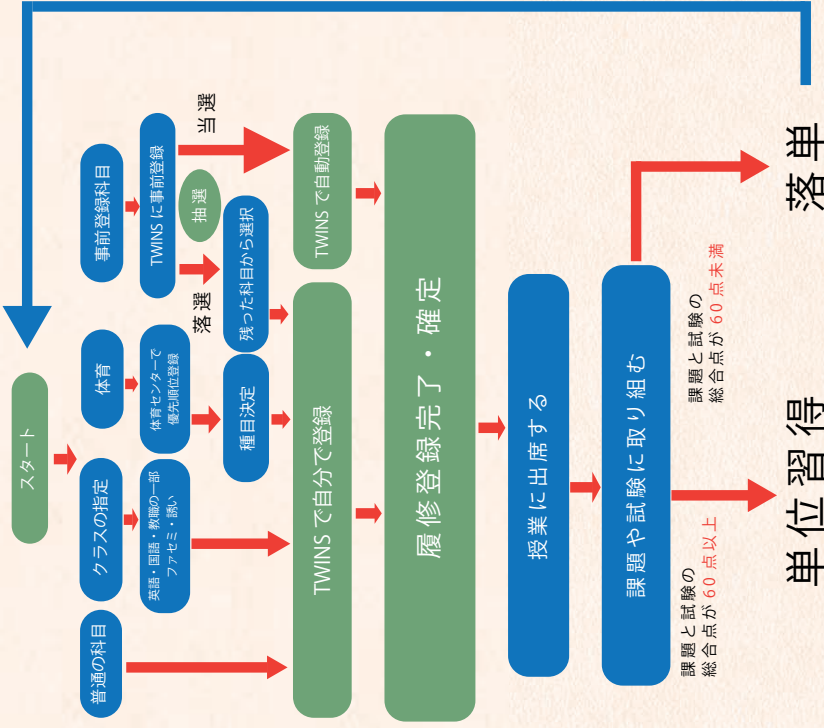
文責
原隆輔

入学して間もなく春Aの履修登録が始まります！

履修登録は忘れずと単位を取れません！（講義だけなら聴講という形で受けることも可能です。）

テストに名前を書く前に・・・授業に出席をする前に・・・とにかく必ず履修登録をしましょう！
体育以外の科目はTWINSから事前登録、履修登録が行えます！

下の図は単位修得までの流れの概要を示したフローチャートです。



・事前登録

事前登録が必要な科目は事前登録を確実に行いましょう。講義自体が受けられなくなりま
す！あとテストまで2週間かぁ～ と思ったら次の学期の事前登録を思い出してくださ
い！また体育はその他事前登録と異なるので注意が必要です。しかも非常に早く締め切り
が来ます！春学期は入学式の2日後、秋学期分は春Cいっぱいには締めきりです！要注意！

・履修登録

履修登録は一定期間内であれば取り消しや変更が可能です。履修確定後は単位習得へ向け
て頑張らしましょう！システムが結構複雑なのでアカサポや先輩たち、友達などの助けも借
りていきましょう！

・その他注意

また事前登録、履修登録では選んだ科目が合っているかの確認をとにかくしましょう！
特に、同じ名前でも総合学域群対象、更には自分のクラス対象の授業か、同じ名前でも開
講している学群・学類が同じか、くどいようですが確認大事です！

そして間違えてしまった場合はアカサポに言って相談しましょう。書類の発行をしてもらっ
たり、担当の先生の捺印をもらいに行ったりといういろいろ手間がかかりますが、一切合切終
わったわけではありません。希望はまだあります。間違えないのが1番ですけどね。

筑波大学の授業システム

文責
長谷川遙人

筑波大学に合格おめでとうございます。さて、苦しい受験勉強を乗り越えた皆さんにこんなことは言いたくないのですが、学生の本文は勉強です。特に、総合学域群においてはそれが顕著で、“受験生2年目”などと揶揄されることもあります。そんな大学生活の勉強において最も大切な、大学の授業のシステムについてここでは軽く説明させていただきます。ある程度の枠組みの説明となりますので、詳しくは履修要覧を熟読ください。皆さんが無事に移行できますように。

<授業>

筑波大学の授業は、1コマが75分で、1日6コマ×5日の週30コマで構成されています。5週間で1モジュールとして扱い、春A・B・C、秋A・B・Cの6モジュールで一年間が構成されています。授業10回で1単位*となり、年間に45単位まで**履修することができます。(基本的には90分/1コマ×15回→2単位となる大学が多いです。他大生と話すときは話が噛み合わないことがあるので注意。)

* 語学は15コマで1単位、体育は10コマで0.5単位など例外もあるので注意。少し損した気分になりますね。

** 教職科目・集中授業など履修数上限に算入されない授業もあります。また成績次第では、45単位以上履修することができます。(申請が必要)

<履修>

総合学域群生の履修作りは学類生と比べてかなり難しいです。移行要件・重点科目に加え、移行先の一年次の必修までなるべく取っておかなければなりません。文系移行を目指している場合は、移行要件・重点科目が履修をあまり圧迫しない一方、理工学群・理系、特に理工学群への移行を目指している場合は履修のほとんどが移行要件・重点科目と必修で埋まっています。そして、もし移行する予定だった学類に移行しなかった場合、学類2年生となったときに大幅な履修の遅れが出てしまいます。様々な未来を考慮し、履修を設定することが大切です。入学後に、元総合学域群生の先輩が履修組みを手伝ってくれるイベントがあります。また、総合学域群生専用の支援室であるアカデミックサポートセンターがいつでも相談に乗ってくれるため、積極的に頼ってください。

<成績>

移行するには、行きたい学類の移行要件を満たすことが必要です。そして、重点科目も移行点の計算をする際にその科目の成績に10~20倍の倍率がかって計算されるため、確実に習得しなければならなくて、特に高い成績が求められます。筑波大学では、授業ごとに満点で成績がつけれ、習得単位はA+・A・B・Cの評価に振り分けられます。Dの評価を付けられた場合はその単位を落とすということになります。また、A+・A・B・C・Dの評価は、それぞれ4.3・4.3・4.3・2.0と数値化されてGPAに算入されます。GPAとは学生の大学での成績を一目でわかるように設定された指標です。どの学類においても3強~3.5ほどが平均値となっています。しかし、総合学域群生でいる間はおおよそ3強~3.5ほどが平均値となっており、総合学域群生でいる間はそれほど重要な指標ではないかもしれません。移行点の計算では、習得単位の成績の良い方から参照するからです。平均的に良い成績を取るよりも、凹凸を付けて成績を取る方が、移行の際には有利に働くこともあります。加えて、重点科目は否が応でも移行点の計算に関わってしまうため、特に高い成績を取らなければならない科目にもなります。移行を成功させるためには、ある種戦略的に授業をとることも必要かもしれませんね。あなたの履修が悔いのないものになることを祈っています。良い大学生活を。

筑波大学で使う 様々なシステム

文責
松浦唯永

ここでは筑波大生が使う様々なシステムについて紹介します。

<TWINS>

TWINSは主に履修登録、成績参照、授業アンケートの記入、移行登録に使用されます。



ログインすると、画面上部に「履修」や「成績」などのアイコンが表示され、画面中央には重要なお知らせが表示されます。右上の時計は自動でログアウトするまでの時間を表示しており、残り0分になったときはもう一度ログインする必要があります。

・履修

「履修」のアイコンをクリックすると、画面中央に時間割が表示されます。その時間割の未登録と表示されているところをクリックして、科目番号を入力することで履修登録ができます（事前登録が必要な授業は「事前登録」のタブから、その授業のある曜日と時間を選択して登録します）。

曜日	時間	科目番号	科目名	担当教員
月	1時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
月	2時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
月	3時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
月	4時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
月	5時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
火	1時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
火	2時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
火	3時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
火	4時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
火	5時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
水	1時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
水	2時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
水	3時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
水	4時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
水	5時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
木	1時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
木	2時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
木	3時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
木	4時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
木	5時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
金	1時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
金	2時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
金	3時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
金	4時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹
金	5時	GA13401	基礎メカニクス入門	三木 浩樹

<manaba>

manabaは主に小テストの回答、レポートや課題の提出、授業資料のダウンロード、授業や試験に関するお知らせの確認に使用されます。そのため、manabaは筑波大生が最も頻繁に使用するシステムです。また、小テストや一部のレポートの結果はmanabaから確認できます。



<Microsoft 365>

筑波大生はWordやExcelなどのofficeソフト、TeamsやStreamなどのクラウドサービスを無料で使用できます。

・Microsoft Teams

Teamsは主に同時双方向型のオンライン授業やオンデマンド授業を視聴する権限の付与に使用されます。オンデマンド型の授業では、最初にチームコードが公開され、それを入力してチームに参加することで講義動画を視聴することができます。忘れてしまうと授業動画の視聴ができないため、入力し忘れないようにしましょう。

・Microsoft メール

小テストが公開されたときや、新しいお知らせが届いたときなどにメールが送られてきます。それだけでなく、先生から個別にメールが送られてくることもあるため、通知がくるよう設定しておきましょう。

(メールの例)



<その他のシステム>

・ANPIC

ANPICは災害発生時に学生の安否確認に使用されます。災害発生時にメールが送られ、学生はANPICを使用して安否状況、現在地を伝えます。これは1月の能登半島地震でも使用されました。

・respon

respon は授業の出席確認に使われます。授業中にq桁の番号が提示され、学生はその番号を入力し、幾つかの質問に答えて提出することで出席の証明をします(小テストの回答や課題提出を出席の条件にしている授業もあります)。



・リモートアクセス

筑波大学には、学外から自分の大学アカウントのシステムやデータを操作できるリモートアクセスがあります(国内からのみ可)。大学のパソコンで途中でやめた課題の続きを自分の部屋でやりたいときや、自分のデバイス内のデータを大学のアカウントのデータにコピーしたいときに便利です。詳しくは以下のサイトをご覧ください。

(リモートアクセス - 全額計算機システム - 筑波大学
<https://www.u.tsukuba.ac.jp/remote/>)



単位・GPA・評点について

文責 金子陽友

※単位・GPA・評点についての詳細な説明は、履修要覧の「1 学修」にも載っています。
ここでは説明しきれない細かな例外もあるので、こちらも併せてご覧ください！

○単位について

大学に入ったばかりの皆さんでも、「単位」という言葉ぐらいいは聞いたことがあるのではないのでしょうか？
ここでは、「単位」とは何かを、皆さんにご説明します！

〈単位とは？〉

単位は、履修要覧では、「授業科目の修得に必要な学修量を計る基準となるもの」と定義されています。
つまり、単位とは、その科目について、生徒が十分に学修したことを示すものなのです。
年間 45 単位まで履修することがありますが、成績の優秀な人は、申請をすると年間 50 単位まで履修することができます！（教職科目など、一部の科目はこの計算に含まれません）
そして、これを「24～26 単位取得」することで、大学を卒業することができます！
逆に、年間 15 単位を修得しないと、大学を除籍になります。

〈単位を得るためには？〉

単位を得るには、まず、授業を取る必要があります。
ここで気をつけてほしいのは、授業によって、貰える単位数は異なる場合がある、ということです。

単位は、以下の規則に従って与えられます。

授業の方法	該当する授業の例	授業のコマ数	貰える単位数
講義・演習	総合生が履修する だいたいの授業	$\frac{10}{1}$ コマ 1 モジュール間週 2 コマ 2 モジュール間週 1 コマ	1 単位
外国語	英語・初修外国語	$\frac{15}{3}$ コマ 3 モジュール間週 1 コマ	1 単位
実験・実習・実技 一部の演習	体育など	$\frac{10}{2}$ コマ 2 モジュール間週 1 コマ	0.5 単位

なお、例えば、講義・演習の授業で、20 コマ履修して 2 単位の授業や、15 コマ履修して 1.5 単位の授業などもあります。

例外もあるので、この表は、あくまで 1 つの目安として活用してください。
分からないことは、アカサポや先輩などに聞くと、親切に教えてくれるはずです！

〈単位についての例外〉

単位は、基本的に授業を履修して得るものですが、授業を履修せずに得られる場合があります！

・英語について

総合学域群では、英検 1 級または TOEIC 800 点の成績を有する学生について、English Presentation Skills I & IIの履修を免除しています。

・他大学からの編入者について

総合学域群では、他大学の単位を単位として認定する場合があります。

OGPA・評点について

GPA は、履修科目の成績 (=GP) の平均値を示す値です。

GP は、100 点満点で付けられる「評点」に対応して定められており、アルファベッ

トで表現される「評語」も、併せて記載されます。

成績の評価方法には2種類あります。

〈P、F の評語で表現される場合〉

P= 単位が取れた (いわゆる「得単」)

F= 単位が取れなかった (いわゆる「落単」)

を意味します。

P・F の評語で表現される科目は、GPA には含まれません。

また、この科目には、評点は付けられません。したがって、P・F 科目の成績は、移行には使えません。

〈A+、A、B、C、D の評語で表現される場合〉

評語と成績点、GP の対応は、以下の通りとなります。

評語	評点	GP
A+	90 点以上	4.3
A	80~89 点	4.0
B	70~79 点	3.0
C	60~69 点	2.0
D	60 点未満	0.0

C までの成績を収めた学生が、単位を取得できます。

〈GPA について〉

GPA は、各科目の GP を足し、履修した科目数 (P・F 科目など一部を除く) で割った値となります。

GPA が 4.0 を超えている学生がいたら、その人は各科目で基本的に A 以上を取っている秀才、ということです。

〈注意事項〉

・一度単位を取った科目は、再履修できません。

単位は取れたが成績が悪かった場合も、再履修はできないので、要注意です！

・GPA 制度は、各大学で異なります。

90 点以上で GPA が 4.0 といった大学もあるので、GPA バトルを他大学の学生としない

ように！（筆者はこれで恥をかきました）

・成績の通知は実家に届きます。

親にばれないから成績悪くてもいいや、といった考えはやめましょう。

授業の出席と成績評価方法

文責
金子陽友

〇授業の出席について

高校までと違って、大学の授業には、何百人も受講する授業や、動画を見て学修するオンデマンドの授業もあるため、誰が授業を受けていたか、を把握するのはかなり困難です。

ここでは、私が今までに受けた授業であった、出席の証明方法をご紹介します。

・respon

筑波大学で導入されている、出席確認用のアプリです。

PCの場合はmanabaから、スマホの場合はアプリからそれぞれアクセスすることができます。



〈PCの場合〉

manabaの赤丸で示した位置に、responのロゴが記載されています。

そこからresponに入り、q桁の番号(授業によっては小課題)を提出してください。提出が完了すると、出席として扱われます。

〈スマホの場合〉

まず、サーバーを登録する必要があります。

画面の表示やrespon公式サイト(右QRコードよりアクセス可能)、大学の案内などを参考に、設定を済ませてください。

なお、サーバーにはatmn.b.tsukuba.ac.jpを設定してください。

そのあとはPCの場合と一緒に。



・manabaからの小課題の提出

manabaから、授業内で示された通りに課題を提出することで、出席となるケースです。授業を聞いても、小課題を出し忘れると欠席扱いとなることに注意が必要です。

なお、この小課題の成績が、授業の成績に含まれる場合や、この小課題の成績のみで授業の成績を判定する場合もあるので、注意が必要です。

・授業内での課題提出

対面授業の場合に、授業内で課題を提出することで、出席となるケースです。

こちらも、提出した課題の成績が授業の成績に含まれる可能性があります。

・出席票の提出

出席したことを示すために、学籍番号と名前、科目名などを記入する紙(出席票)があります。

授業開始時に配布され、授業終了時に提出することで、出席となります。

・呼名・名簿にチェックをする

原始的なやり方です。

人数の少ない対面授業で導入されていることが多いです。

・学生証をリーダーにかざす

学生証を、専用の機械にかざすことで、出席となるケースです。

学生証を忘れると面倒なので、気を付けましょう。

以上のように、出席の取り方は非常に様々です。

なお、各授業について、基本的に全授業回数の3分の1以上欠席した学生は、無条件で単位がなくなります。

各授業、初回のガイダンスで出席の取り方に関するアナウンスがあるはずですので、しっかり聞いて、欠席扱いとならないように留意しましょう。

○成績評価方法について

出席と同じように、成績の評価方法にもいくつかの種類があります。

ここでは、成績に関わる課題やタスクのうち、主なものを紹介します。

・出席する

授業によっては、出席することで成績が加算される、ありがたい授業があります。

しかし、逆に言うと、休めば休むほど成績は下がるということになります。

・授業を積極的な態度で受講する

授業内での関心・意欲や態度も、成績をつける際に加味される事項の1つとなります。

特に、ディスカッションを中心とした授業では、挙手して発言をした学生の名前を、先生がメモしている、などのケースがあります。侮らず、積極的な態度で授業に臨みましょう。

・授業内での小課題・オンラインで提出する小課題

授業内で提出する課題には、出席確認のためだけに用いられるものと、成績に

おいて考慮されるものがあります。

いずれの場合も、真剣に取り組むようにしましょう。

また、プレゼンで発表をする場合のパワーポイントの内容が成績に含まれる科目や、授業後に受講する小テストのみで成績が決する科目もあります。

・中間レポート・最終レポート

文系を中心とした多くの科目で採用されている方法です。

レポートでは、内容や字数が充実しているか、ということに留まらず、内容の客観性、引用した論文の質、文体など、非常に様々な事項が採点の対象になっています。レポートの書き方は、最初は難しいと思いますが、先輩からアドバイ

を買ったり、必修授業「国語」の中で学習したりして、徐々に身につけていきたいと思います。

また、オンデマンド授業を中心に、最終レポートのみで評価が決する授業も少なくありません。

(間違ってもレポートを提出締め切り日に始める私のような学生になっではいけません)

・中間テスト・期末テスト

理系科目を中心に、テストが課される科目が多くあります。

こちらでもレポートと同様、テストのみで成績が決する科目が多く、日々の復習と早めの対策が重要になってきます。

また、レポートの科目よりも、明確に採点の基準があるため、頑張って勉強したのに単位を落とす科目があることも特徴です。無慈悲ですが、頑張るしかありません。

科目によっては、以上のような成績評価方法を、何個か組み合わせて評価することがあります。

例) 授業の参加態度と授業内課題 40% + 期末レポート 60%

オンライン小テスト 70% + 期末テスト 30% など

成績評価方法の詳細は、各科目のシラバスに記載されているので、受講前にシラバスを熟読するようにしてください。

なお、繰り返しになりますが、レポート・テストの成績がどんなに良くても、全授業回数の3分の1以上を欠席した学生は、その授業の単位を取得できません。気をつけるようにしてください。

入学後に配られる 移行に関する資料

文責
小林岳広

<履修・移行ガイドブック>

入学式の日に配布される資料の中で最も重要な資料といえるでしょう。履修計画の立て方、成績評価の方法、受入順位決定方法、移行の手順、各学類の応募要件・重点科目など重要な情報がたくさん書かれています。配布されたら必ず一通り目を通しておきましょう。今後移行する学類を変更したいと思ったら、これを読んでアカサポに相談に行ってみてください。

<移行後に備えて>

各学類の紹介、注意事項、移行後の履修の流れなどが記載されています。応募要件、重点科目とは別に、各学類がその学類にくるなら一年次の間に履修してほしい科目も記載されています。その科目が移行先の学類で必修であった場合、一年次に履修していないと二年次以降履修しないといけません。もともとその学類だった人と比べ、履修していないかった総合生だけ二年次が忙しくなるなんてこともあるのでチェックしておきましょう。※2024年度から冊子配布はなく、manabaにデータが掲載されるそうです！

<履修 / 事前登録案内>

筑波大学の一年次は主に、専門導入科目と呼ばれる科目を多く履修することになります。(一年次向けの科目すべてが専門導入科目というわけではないです。)そして、専門導入科目は履修する際に事前登録が必要になります。この冊子には、その事前登録の手順や専門導入科目一覧が記載されています。

<履修要覧>

卒業に必要な要件や細かい規則などが記載されています。教職に関する規則もここに書かれています。教職に関する科目や教職をとっている人がしなければならぬことが多く書かれているため、教職をとる人は必ず良く読みましょう。なくしたらもらえないので注意！大切にしておいてください。

このほかにも入学式では多くの資料が配布されます。一通りチェックしておきましょう。新歓祭が入学してすぐにあるのですが、それ以降はサークルの新歓などで忙しくなってしまうので、入学式とその後数日で読んでおくのが吉です！

移行についてこれだけは
わかってほしい

文責

わかってほしいこと

移行に関しては様々な規定があり、かなり複雑です。このページでは主要な部分を知らせてもらえるように、

1. 移行先は成績点で決まる！
 2. 成績点は（ほぼ）重点科目で決まる！
 3. 応募要件を満たさないと移行できない！
- の3つのルールにまとめました。正確な情報は入学後のオリエンテーションや「履修・移行ガイドブック」などを見てください。

＜ルール１：移行先は成績点で決まる！＞

1 年次の3月に移行先が決定し、2 年次から移行先で勉強します。基本的に成績点が高い人順にその学類に移行できます。以下で具体的な例を見ますが、長くなったので飛ばしても大丈夫です。

次の写真のオレンジ枠だけを見てください。AさんでもBさんも第一志望が社会学類になっています。例えば社会学類の定員が1名だった場合を考えてみましょう。Aさんのほうが成績点が高いのでAさんが社会学類に移行でき、Bさんはできません。第一志望に落ちてしまったBさんは、第二志望の工学システム学科において、工学システム学科が第一志望のCさんと、どちらが成績点が高いかを判定されます。このとき工学システム学科も定員が1名だったとします。そうすると、成績点はBさんの方が高いのでBさんは工学システム学科に移行でき、Cさんはできません。ここでCさんが工学システム学科が第一志望だったことは関係ないことは注意が必要です。そしてCさんは第二志望の情報メディア創成学科と同じようにに成績点が他の人より高いかを判定されることになります。

今回の場合、最終的にAさん→社会学類、Bさん→工学システム学類、Cさん→情報メディア創成学類かその他の学類、に移行します。

 $\langle \downarrow A \pm k \rangle$

希望種	移行区分	移行区分 定員	移行区分 希望人数	正志進学者 希望人数	正志進学者 実数	他校転入分 ランダム決定		
1	社会工学類	-	15	-	111	充足	366.9	-
2	社会学類	-	4	95	52	充足	1356	P-
3	知能情報・図書館学類	-	5	68	68	充足	1356	P+
4	国際総合学類	-	20	-	139	充足	1356	-

 $\langle \downarrow B \uparrow n \rangle$

系課程	科別区分	専攻区分 定員	専攻分 定員	専攻区分 定員人数	専攻区分 定員人数	授業科目 数	授業科目 単位数	専攻区分 単位数	専攻区分 単位数
1	社会工學類	-	15	-	111	充足	354.35	-	F+
2	工学システム学類	-	3	-	51	確保充足	877.25	-	F+
3	社会学類	16	4	95	52	確保充足	1626.5	P+	P
4	情報メディア創造学類	-	3	-	114	充足	1026.5	-	P

$$\mathbb{V} \rightarrow \mathbb{C} \times \mathbb{V}$$

希望職	移行区分	移行区分 定員	移行区分 定員数	移行区分 定員数	希望職	移行区分	移行区分 定員	移行区分 定員数	移行区分 定員数	希望職	移行区分	移行区分 定員	移行区分 定員数	移行区分 定員数
1	工学システム学類	30	3	128	51	1	工学システム学類	30	3	128	51	15	103	860.8
2	情報メディア創体学類	-	3	-	114	2	情報メディア創体学類	-	3	-	114	15	103	1327
3	情報科学類 (区分A)	-	0	-	66	3	情報科学類 (区分A)	-	0	-	66	15	103	382.9
4	社会工學類	15	15	111	111	4	社会工學類	15	15	111	111	15	103	344.2

※これは12月時点の模擬判定の画面です。模擬判定はtwinsの「移行」で見られます。詳しくは履修・移行ガイドブックを参照。

実際にはさらに各学類の定員が多く、また1類、2類、3類のそれぞれが特定の学類に対して優先区分をもっています。ここでは省きますが、優先区分をもっていない学類に対しても全体区分という形で移行できます。全員にすべての学類（体育専門学群以外）への移行の道があるので、様々な可能性を探してみてください。

＜ルール2：成績点は（ほぼ）重点科目で決まる！＞

このようにして移行先が決定していきますが、注意したいのが成績点のつけ方が志望する学類によって異なることです。上の写真でも、同じ人なのに志望する学類によって成績点がバラバラでした。これは重点科目が大きく関係しています。成績点は履修した科目の成績の合計ですが、重点科目は他の科目よりも成績が10倍、もしくは20倍で加算されます（入学後、重み1.0、重み2.0という表現で説明される）。そして学類によってこの重点科目の設定が異なるのです。どの学類がどの科目を重点科目に設定しているかは、「履修・移行ガイドブック」の後ろの方にある付録が便利なので見てください。

志望する学類の重点科目は必ず履修すること、他の科目よりも力を入れて勉強することが重要になってきます。また、とくに夏休み前の時点では、将来の選択肢を増やすためにできるだけ幅広い学類の重点科目を履修することも大切でしょう（ただし履修上限の45単位には注意）。重点科目を履修していないと、ほぼ確実にその学類には移行できなくなってしまいます。事前登録の対象になっていることも多いので、期日までの事前登録を忘れないでください。事前登録締め切りは「履修・移行ガイドブック」の表紙裏を参照してください。

＜ルール3：応募要件を満たさないと移行できない！＞

移行先の決定にあたって、最後にもう一つルールがあります。応募要件です。重点科目とは別に、これを修得しておかないとそもそもその学類を志望できない、というような科目のことです。これも志望する学類によって様々なので、「履修・移行ガイドブック」の後ろの方にある付録を見てください。応募要件は履修だけではなく、修得までしないと絶対にその学類には移行できません。加えて事前登録が必要な場合が多いので注意してください。また応募要件についても後から興味が変わってもいいように最初のうちは特定の学類に絞らないほうがいいかと思えます。

く最後に：アカサボ、ラーニングサポーター、より長期的な視点を>

・アカサボとは

長くなってしまいましたが、最後にその他の重要なことについて書きます。アカデミックサポートセンター（通称アカサボ）は1C棟2階にあります（google mapで出てきます！）。他の学類でいう支援室の一つです。総合生は様々な申請などをここでしますが、アカサボでは履修相談も行っています。どの科目を履修するべきか一緒に考えてくれます。友達や先輩よりもアカサボが一番詳しく、分かりやすく教えてくれます。迷ったらアカサボ、迷っていないくても絶対に一度はアカサボに行くべきです。

・ラーニングサポーターとは

これは主に理系の勉強を教えてくれるチューター制度です。特定の分からない問題の解き方からそもそもその勉強の仕方まで幅広く対面かオンラインで質問・相談できます。他の学類ではわからないことがあったら先生にメールなどで質問したりするのですが、これは教えてくれるのが大学院生の方ではるかに聞きやすいです。詳しくは公式ラインがあるので、登録してみてください。

・長期的な視点を持つこと

最後に、皆さんには長期的な視点を持つてほしいです。まずは各学類の過去の移行時の合格最低点を知っておきましょう。検索したら見れるので、自分が志望する可能性のある学類ではどれくらい成績点を取っておく必要があるのかチェックしてください。

また春に授業をとりすぎてしまい、履修上限45単位に引っかかって秋に重点科目・応募要件の科目を履修できなかったなんてこともあります（上限解放せずに履修上限45単位をこえると、強制的に履修した科目が削除されるので勝手に超えても大丈夫なんて思わないこと！）。春Aの段階でふわっと最低限何を履修するか、一年間の履修を考えておきましょう。そのためにもやはりアカサボに行くべきです。

さらにこの一年間だけでなく、移行後、そしてその先を見据えて今何を履修すべきか考えることも重要です。これについては入学式の日配られる「移行後に備えて」という冊子をぜひ見てください。

今回、優先区分・全体区分、成績点に反映されない科目（必修英語、教職など）、秋CのTOEIC（学類によっては成績点に最高100点加算）、成績点に反映される最大単位数、履修上限と履修上限解放の話など多くのことを省いてしまいました。完全な内容は必ず「履修・移行ガイドブック」や入学してすぐのオリエンテーションで理解してください。

移行に関するアンケート

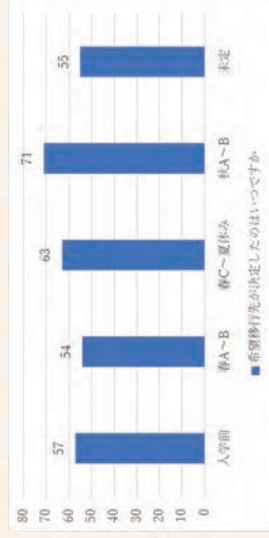
文責
小林岳広

ここからは 2023 年入学の総合学域群生にとった移行に関するアンケートの結果をお見せしたいと思います！アンケートは 2024 年 1 月 15 日にとったものです。

はじめに

はじめに、これから見るアンケートはあくまで、「2023 年度総合学域群生」の結果であり、皆さんの状況を反映しているものではありません。皆さんが入学後、気になるのではないかと、という思いから、少しでも参考になればということで掲載していますが、2024 年度は全く状況が違うかもしれません。そういった点を把握していただいたうえで、「へえーそんなこともあったんだー」くらいの感じて見ていただければと思います。過度に不安になったり、逆に油断したりということがないようにご注意ください！

Q1. 希望移行先が決定したのはいつですか？



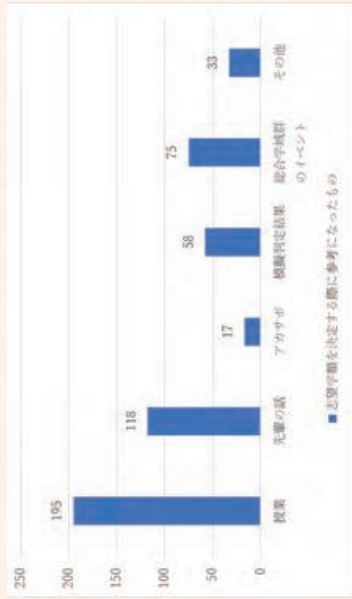
結果は以上のようにになりました。結構ばらついていますが、春Cから秋のはじめに移行先が決まった人が多いみたいですね。夏休みに総合学域全体で移行に関するイベントが行われるので、それも影響しているかもしれません。ちなみに、この質問に答えてくれた総合学域群生は 300 名でした。入学前から移行先が決まっているのはおよそ 5, 6 人に 1 人ということですね。筆者の周りでは、「入学前から決まっていたけれどこの 1 年で志望先が変わった」という人も多かったです。また 1 月にまだ決まっていなかった人も少なくないです。皆さんも焦らず慎重に移行先を決めていただきたいです。

Q2. 秋 A の時点での移行判定は？



この設問には 282 名の方にご回答いただきました。この質問では、秋 A 時点で行われる模擬判定で出された移行志望先結果のうち、第 1 志望から第 3 志望までの結果について伺ったアンケートです。P→合格最低点を超えている、F→このままだと不合格という意味です！およそ 1/2 の学生が第 1～第 3 志望まで全て P という結果になりました。逆に 1/3 は第 1～第 3 志望のどこかに F があるみたいです。

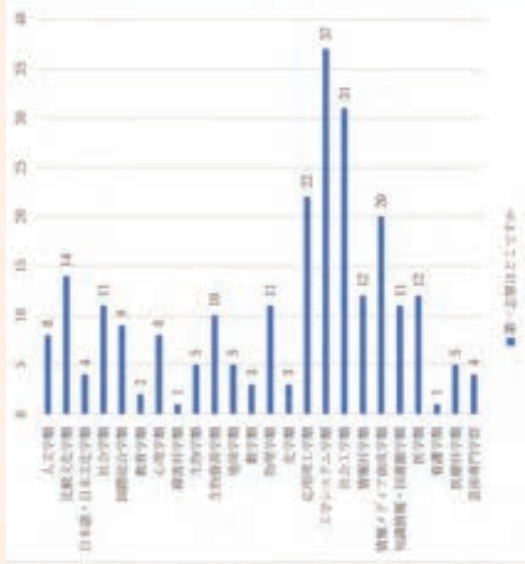
Q3. 志望学類を決定する際に参考になったもの



この設問は複数回答で募集しました。その結果、最も参考になったという意見が多かったのが授業ですね。例えば筑波大学では、春Aの初めに「学問への誘い」という名物科目を全1年生が受講するのですが、そこで各学類でどのようなことを学べるのかを知ることができます（授業動画をため込まないよう注意！）。また総合学域群のイベントの回答が多かったのが、夏休みに行われた「夏季ガイダンス」です。先輩方が登壇して話を聞いたり、各学類のブースに行って教授や学生のお話を聞いたりするこのイベントを通して、具体的な学びのイメージが湧いたという人も多かったようです。執筆者の周りでも夏季ガイダンスがとても役に立ったという人もいました。またその他の回答では、研究室、研究所の一般公開等で決めたという人もいれば、「新・物理入門」という参考書がきっかけになった人もいました。

Q4. 第一志望はどこですか（2024/1/15 現在）

この設問には249名の方に回答いただきました。回答は任意に設定したこともあって実際はもう少し各学類の志望人数が多いかと思えます。参考までに、総合生は全体で400人ほどです。



こうしてみると、社会工学類、工学システム学類あたりが多いみたいですね。しかしもとも両学類は受け入れ人数が多く、社会工学類は30人、工学システム学類は33人受け入れるので、ほとんどの人が移行できそうです。このように、意外とばらせるので学生側はこの学類が人気だからやめておこうなどの戦略的操作を行わずともよく、純粹に興味関心から選ぶことができると思われます！

筑波大学では履修する科目次第で様々な資格を取得することが出来ます。ここではその一部について簡単に紹介します。詳細は入学直後に配布される「履修要覧」という分厚い冊子の中に掲載されているので、気になった方はそちらも見えてみてください。

＜教員免許＞

筑波大学では、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭、養護教諭、特別支援学校教諭の5種類の教員免許を取得できます。小学校・中学校・高等学校の免許は医学群を除くすべての学群で取得可能ですが、学類・学群ごとにどの科目の免許を取得できるかが変わります。また、特別支援学校教諭の免許取得には幼稚園・小学校・中学校・高等学校のいずれかの教員免許を取得していることが必要です。これらの教員免許を取得するためには、通常履修する共通科目や専門導入科目などに加えて教職課程の科目を履修する必要があります。

・教職課程で履修する科目

教職課程の科目にはいくつかの区分があり、各科目ごとに所定の最低修得単位数が定められていて、それぞれの区分の最低修得単位数を括弧内に示しています。ここでは取得希望者の多い中学校・高等学校の教職課程について記載します。

1. 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校28単位、高等学校24単位）

この区分に該当するのは、取得希望の教科に関連する専門導入科目と、その教科の指導法についての科目です。それぞれの教科の指導法についての科目は2年次から3年次に履修します。

2. 教育の基礎的理解に関する科目（中学校・高等学校ともに10単位）
教職や教育、そして教育の対象である児童・生徒がどのようなものなのか、どのような存在なのかを学ぶ科目です。総合学域群に所属する1年次での履修科目のほとんどもこの区分に該当します。1年次に履修する科目は以下の通りです。

- ・現代教育と教育理念
- ・教育史概論
- ・教職論Ⅰ・Ⅱ
- ・教育社会学概論*
- ・教育の法と制度*
- ・学校経営概説*
- ・こころの発達
- ・学習の心理

「*」を付した科目は3科目の中から2科目を選択します。これらの教科はクラスによって履修する順番が決まっています。自分がどの期間にどの科目を履修すればよいのかについては、入学後に配られる「履修・移行ガイドブック」のクラスごとの固定時間割表を確認してください。また、上記の科目以外にも、「特別支援教育」「教育課程編成論」の2科目を3年次に履修します。

3. 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校10単位、高等学校8単位）

区分の名前に含まれているものの以外には情報通信技術の活用についての科目や進路指導やキャリア教育に関する科目、特別活動の指導法が含まれます。2年次から3年次に履修します。

4. 教育実践に関する科目（中学校・高等学校ともに7単位）

この区分には教育実習と教職実践演習の2科目が含まれます。教職実践演習は教職に関する講義の後にグループ討論や模擬授業指導案の作成やその実践などをする科目です。どちらも4年次に履修します。

5. 大学が独自に設定する科目（中学校4単位、高等学校12単位）

「介護等体験の意義」や「環境教育論」、「生涯学習論」、「学習障害概論」、「学校図書館論」などの科目に加えて、取得を希望する教科に合わせた科目の履修が可能です。また、この区分には最低修得単位を超えて履修した①～③の区分に該当する科目の単位数も含めることができます。多くの科目は2年次から4年次に履修しますが、「介護等体験の意義」は標準履修年次が1年次の科目で、秋C春季集中授業となります。この科目は小学校・中学校の教員免許取得要件である「介護等体験」を実施するための必修科目です。

6. その他の科目

この区分には共通科目である体育、外国語、情報（情報リテラシー（講義）、情報リテラシー（演習）、データサイエンス）と日本国憲法に関する科目が該当します。共通科目は体育の1単位分を除いて1年次ですべて履修します。日本国憲法に関する科目は「日本国憲法」と「憲法I」が該当します。「日本国憲法」は夏季あるいは春季集中授業で、総合学域群対象の科目は標準履修年次が1年次です。移行する学域によりは2年次でも履修できますが、1年次のうちに修得しておくことを推奨します。

・教職課程を履修する際の注意事項

1. 時間割が過密になる

集中授業を除いても1年次で履修すべき単位数は8単位あり、総合学域群生の場合だと年間履修上限単位数には算入されませんが、時間割が過密になります。ほかの共通科目や専門導入科目同様、科目ごとに課題や試験が実施されるためほかの科目の勉強時間が減ります。これは2年次以降も同様なので、課題や試験勉強を計画的に実行することが必要です。また教職の科目は往々にして1限目に入るので、朝早く起きるのが苦手だとちょっと大変です。

2. 取得希望教科に必要な教科及び教科の指導法に関する科目を見落としがち

取得教科ごとに修得しなければならない教科及び教科の指導法に関する科目が定められています。中には取得希望教科とそこまで関係なさそうな科目が指定されていることもあります。例えば高校で地学を教えたい、と思った場合、取得する教科は高校の「理科」になりますが、これには教える科目は地学でも生物学序説など生物系の科目も取らなくてはいいけません。履修要覧を確認して履修漏れがないようにしましょう。

3. 卒業要件単位数に含まれない場合がある

教職課程の科目は4年間ずっと履修すれば相当な単位数になりますが、人間学群を除けばこのすべてが卒業要件単位数に算入されることはありません。中には全く加味されない学域もあります。なので、そのような学域に移行を希望する場合は教職以外の単位もたくさんとる必要があるので大変かもしれません。

4. 集中授業の履修申請期間がわかりにくい

各モジュールで開講される科目とは異なり、集中授業の履修申請期間はその授業ごとに異なります。この申請期間の周知は TWINS 上の掲示板的「資格取得に関するお知らせ」というところで行われますが、わざわざ自分から情報を見つけ出さないといけないことから、よく見落としします。気づいたら履修申請期間を過ぎていた、ということが起きるかもしれないので、自分がとりたいた集中授業の時期を確認し、その教週間前には TWINS の掲示板的にあるお知らせの山の中から自分に必要な情報を探し出すとよいでしょう。具体例を挙げると、令和5年度では「日本国憲法」の履修申請期限は夏休み入ってすぐ、「介護等体験の意義」の履修申請期限は1月末でした。

5. 「履修カルテ」の存在を忘れる

教職課程の履修を届け出ると、その場で「教職課程履修者の履修カルテ」という冊子を渡されます。これは教職の科目で学んだことを記載するもので、それぞれの科目に対してページが割り振られています。ある科目の履修が終わった直後にその科目のページに記入するのが理想的ですが、総合学域群生は忙しいのでよく忘れます。この履修カルテは2年に上がってすぐの5月にいったん提出する必要がある、その時までには1年次に履修した科目についてのページは記入を済ませなければなりません。春学期に取った授業の内容などそのときには忘れ去っていることもしばしばなので、夏休みや春休みなど、まとまった時間が取れる時に書き込んでおく、後々楽です。

6. 手続きが多い

これはここまで書いてきたことと被りますが、手続きや履修申請などが多く、忙しい学生生活の中でそのすべてを把握することは難しいです。筆者が実際に経験した・する予定の手続き類を以下にまとめました(日付は2023年度のものです)。

4月 教職ガイダンス参加(11日夜)、教職課程履修登録票提出(提出期限:26日)

8月 「日本国憲法」履修申請(期限:8月19日)

12月 介護等体験に向けた健康診断の申し込み(期限:翌年1月5日)

1月 「介護等体験の意義」履修申請(期限:1月31日)

2月 介護等体験に向けた健康診断(2月15、16日実施予定)

ここまで教職課程について注意すべきこと(即ち大変なこと)をいろいろ書いてきました。教職課程を履修するメリットもたくさんあります。筑波大学はもともと東京教育大学だったので、教育に関する分野ではかなり力のある大学です。なので教職科目の授業は内容が豊富で魅力的な講義が多いです。また、中学校の免許と高等学校の免許に必要な科目は多くが共通している、両方を同時に取得することも十分可能です。そうすれば将来の選択肢を増やすことにもなります。大変なことも少なくない教職課程ですが、興味のある方はぜひ履修してみてください。新敏委員もサポートするので、いつでも頼ってくださいね!

＜その他の資格＞

ここでは筑波大学で取得可能な教職以外の資格を簡単に紹介します。取得に必要な科目が資格ごとに定められているので、詳細は履修要覧を確認してください。

・社会教育主事

地方自治体の教育委員会事務局に所属し、地域内で行われる学校以外の教育活動（＝社会教育）に対して、専門的な立場から助言・指導を行います。この社会教育には公立図書館や公民館で行われるイベント・講座などが該当します。

・学芸員

博物館で資料の収集・保管・展示・調査研究を専門的にを行います。この「博物館」には美術館や植物園も含まれるので、人によって相手にする資料は様々です。貴重な資料を扱い研究することや、資料を人に説明することなどから、高い専門性と学識が求められます。

・司書・司書教諭

司書は貸し出し・返却や資料管理など図書館の業務全般を担います。司書教諭は学校図書館の業務を担います。司書教諭の免許取得には小学校、中学校、高等学校のいずれかの教員免許を取得している必要があります。

・一級建築士、二級建築士、木造建築士

これらの資格で建築物の設計や工事の監督・管理を行うことができます。これらの資格は工学システム学類エネルギー・メカニクス主専攻、社会工学類都市計画主専攻あるいは芸術専門学群に進み、所定の科目を習得した場合にのみ取得試験の受験資格を得ることができます。

・測量士補、測量士

土地の位置・距離・面積を正確に測量することが基本的な職務です。ほかにも鉱床調査や環境保護にも携わります。数学類・物理学類に移行する、あるいは生物資源学類に移行して「測量に関する科目」を30単位以上修得すれば測量士補の取得試験の受験資格を得ることができます。測量士補として一年以上実務を経験すると測量士の資格を得ることができます。

・社会福祉士

日常生活を営むのに支障がある人の福祉について助言・指導をしたり、相談を受けたります。また、医者などの各種サービス提供者間の連携を図る役目もあります。障害科学類に移行し、指定の単位を修得して卒業すると国家試験の受験資格を手にすることができます。

・樹木医補

樹木の育成・保護・管理事業に関する専門家である樹木医の補佐を行います。樹木医補の実務を1年経験すると樹木医の資格試験の受験資格を得られます。

・施工管理技士

様々な建物の工事を行う際の施工計画の作成や工事の品質・安全の管理を行います。工学システム学類環境開発工学主専攻を卒業し1年以上の実務経験を積むと2級施工管理技士の受験資格を得ます。また卒業3年以上の実務を経験すれば1級施工管理技士の受験資格を得ます。

専門導入科目レビュー

・自然再生士補

自然再生に必要な知識・技術・経験を有し、失われつつある自然環境や野生動物の生態系再生を推進する自然再生士の補佐を行います。生物資源学類に移行し、指定の単位を修得すると自然再生士補の申請資格を得ますが、資格試験の受験資格が満23歳以上など、受験要件は要注意です。自然再生士補として1年以上実務を経験すると、自然再生士の受験資格を得ます。

※その他の資格の取得に使える1年次の科目※

- ・学芸員：現代教育と教育理念、教育の法と制度
- ・司書・司書教諭：図書館概論

大学生活の中で、資格取得のための勉強はあくまでもオプションの一つなので、今うちから気負う必要はないと思います。しかし、いざ資格を取得したい、となると1年次から計画的に履修をすることが求められるので、興味のある資格があったら取得のための要件などを調べておくとうよいと思います。特に教職以外の資格の取得に必要な科目は隔年開講のものもあるため、教職同様資格に関する情報はTWINSの「揭示」欄の「資格取得に関するお知らせ」をこまめに確認するとよいでしょう。何かわからないことがあれば遠慮せずアカサポに相談しましょう！

専門導入科目レビューでは皆さん中の多くの人が履修すると思われる専門導入科目の一部を取り上げ、実際に授業を受けた学生の感想を掲載します。入学後、履修で迷ったときに参考にしてみてください。なお、2023年開講の授業を参考にしているため、2024年度開講の授業も同様であるとは限りません。また、この記事の執筆時期が秋C期間中なので、秋Bまでに開講した科目を掲載しています。詳しくは最新のシラバスを確認してください。

<人文・文化等群>

- ・言語分析入門

開講期間：春 BC

成績評価方法：授業ごとの課題 100%

令和5年度は同時双方向型授業でした。日本語と英語を中心として、言語の音声や音韻、用法などを対象とした学問的成果の一端を知ることができます。また、言語使用に関する分析を自分自身で行う機会もありました。言語をミクロな視点から学問する面白さや、人の言語使用について分析する方法を体験してみたい方におすすめてです。

- ・個別言語学入門

開講期間：秋 AB

成績評価方法：授業ごとの課題 40%、期末テスト 60%

令和5年度はオンデマンド型&同時双方向型の授業でした。日本語、ドイツ語、中国語が題材として扱われますが、ドイツ語や中国語を知らなくても全く問題ありません。日本語を扱う時は、さかさことばや人名、辞書などがテーマとなっており、面白かったと記憶しています。ドイツ語や中国語では、主に各言語の文法を見ていきますが、現在の文法の形になった理由から、その文化圏における思想を垣間見ることができている気がします。

・フィールド文化領域比較文化研究

開講期間：春A

成績評価方法：授業ごとの小レポート40%、期末レポート60%

文化人類学の方法や、地理学の手法を幅広く学べる授業です。レポート課題には、実際に外に出向いて撮影した写真を用いる斬新なものもありました。令和5年度はオンデマンド型&一部、同時双方向型の授業でした。また、responのアンケート機能を用いて毎回の小レポートが出されていたので、manabaの未提出の課題一覧には表示されず、提出し忘れないよう注意が必要でした。文化地理学・文化人類学・民俗学などといった学問について、先生方のフィールドワークに基づいた話が聞けます。

・文化科学領域比較文化研究

開講期間：秋AB

成績評価方法：授業内提出物40%、レポート60%

文化科学領域の教員が、特に自らの専攻とする文化について、様々な切り口から紹介してくれる。内容は難解なものも多いが、その分深く考える面白い主題も多い。

・思想文化領域比較文化研究

開講期間：春B

成績評価方法：レポート100%。現代思想コースのレポート（6割）と比較宗教コースのレポート（4割）

全体的に宗教に関する話題が多く、「幸福」を思想ごとに捉えたり、「幸福」をめぐる対談などもありました。現代思想コースの授業では、東西様々な思想が紹介され、哲学をする足がかりを作ってくれます。哲学・宗教に興味のある人はとってみると面白いかもしれません。

・共生のための日本語教育

開講期間：春A

成績評価方法：授業ごとの課題40%、期末レポート60%

令和5年度は同時双方向型とオンデマンド型が組み合わされて開講されました。同時双方向型の時は、受講生同士のディスカッションも行われ、楽しかったように思います。在日外国人との共生や日本語習得に関連したテーマについて、授業ごとに考えることになります。

・共生のための人類学

開講期間：春BC

成績評価方法：小テスト100%

文化相対主義やエスニシティ、アイデンティティなど多文化共生に関する10のテーマを勉強します。授業を見れば分かる簡単な小テスト10回で成績が出ます。誰でも100点が取れる授業で、それだけでも総合的にはありがたいのですが、本当の魅力はその授業の面白さにあります。知的好奇心が刺激され自分自身の考え方が広がっていき、受験が終わって久しぶりに勉強が楽しい感覚を味わいました。また先生が激あつて、カッコいいです。全10回が終わった後自分もどこか人間として成長できたような気持ちになります。小テストが簡単でそれだけで成績がでてしまいますが、授業が本当に面白いのでぜひ授業をちゃんと聞いてみてください。どちらにせよ、面白い成績も取りやすいので、取って得しかない科目です。個人的おすすめ度No.1になっています。

・共生のための歴史学

開講期間：春BC

成績評価方法：授業への参加状況20%、中間テスト40%、期末テスト40%

令和5年度はオンデマンド型授業でした。responのアンケート機能を用いて出席確認が行われる際には、未提出の課題一覧に載らないので、動画を視聴し忘れないように注意しましょう。また、期末テストでは授業時間内の1時間で1200字程度書かなければならず、苦勞した記憶があります…。日本の歴史を、多文化共生の視点から見ることができるという点では興味深い講義です。

＜社会・国際学群＞

・社会学の最前線

開講期間：春B

成績評価方法：授業毎のレスポンスシート、期末レポート

社会学を担当する教員の方々が犯罪社会学や教育、福祉、食育などそれぞれの研究分野について講義し、授業ごとにレスポンスシートを書いて感想や考察、授業内で出された課題などに答えます。期末レポートは10回の講義全体から関心のある分野をひとつ選んでそれについて論じるもの(2023年度の場合)。規定文字数は比較的少ないため、レスポンスシートでの考察などを踏まえて書けば楽です。「～の最前線」系の中でも成績がとりやすい科目だと思います。授業自体も面白いのでぜひ！

・政治学の最前線

開講期間：秋AB

成績評価方法：期末レポート100%

いわゆる「政治学」を担当する教授の方が自身の主に研究する分野ごとにその内容について講義します。期末レポートの規定文字数は比較的短く、しっかりと授業を見て、自分の考えを用意していれば楽にかけると感じました。

・経済学の最前線

開講期間：秋AB

成績評価方法：期末試験100%

「経済学」を担当する教授がそれぞれの研究分野について講義する。期末試験はレポートかテストかのどちらかを選び、提出する方式(2023年度の場合)。テストの方が少し楽かもしれません。経済学専攻志望なら必修の授業です。

・国際学Ⅰ

開講期間：秋AB

成績評価方法：小テスト100%

「東アジアにおける主権概念の受容」や「イスラームと政治・テロ」のように、特定の地域ごとに焦点を当てて国際的な問題を考えていく授業でした。オムニバス形式で、毎回の小テストだけで成績が決まります。全10回のなかで英語の授業が2つあったのでそこは注意が必要かもしれません。

・国際学Ⅱ

開講期間：春A

成績評価方法：小テスト100%

内容は経済学の基本的な事象や考え方について具体例を示しながら学んでいく形になります。各回の小テストは授業内で話していた内容についての問題が多く、授業の内容をふまえて考えなければいけない問題もたまに出ていました。また10回中3回英語での講義がありましたが平易な英語で何を話しているかわかることがほとんど。スライドに英語で書いてあるので理解しづらい、という事はありませんでした。

・国際学Ⅲ

開講期間：秋AB

成績評価方法：授業ごとの小テスト100%

授業自体はオンデマンド型ですが、小テストは決められた時間に受ける、という形式でした。テストは15分程度で終わりますが、授業内容をしっかり踏まえて回答すれば点はとれるはずです。我々が当然視している、西洋的な諸概念や諸制度を文化やことば、教育・環境・経済・開発といった視点から問い直そう！という授業になっています。

<人間学群>

・人間学Ⅰ

開講期間：春 A

成績評価方法：授業ごとの小レポート 100% (P/F 評価)

「人間とは？」という問いについて、教育学・心理学・障害科学の先生方 10 名が授業ごとに交代でお話をされます。令和 5 年度はオンデマンド型授業でした。P/F 評価の授業なので単位を移行に使用できませんが、「人間学群ではどんなことを学べるんだろう？」ということを知るには絶好の機会かと思います。

・教育基礎論

開講期間：春 BC

成績評価方法：授業ごとの課題 40%、各教員による最終レポート 60%

令和 5 年度はオンデマンド型授業でした。教職課程の授業の内容と重複する部分もありますが、それにより教職の授業を受ける際になる可能性もあるので、教職履修者にもおすすめです。この授業では、教育を哲学・思想・制度・文化といった切り口から見ることができます。授業を分担している担当教員 3 人によって、それぞれ 800 字程度の最終レポートを課されます。

・学校の経営・制度・社会

開講期間：秋 AB

成績評価方法：各教員によるレポート 100%

令和 5 年度はオンデマンド型授業で、3 名の教員が交代で授業を行っていました。教育の目的や方法、学級経営、制度、授業の国際比較、学校と社会のつながりなどといったテーマが取り上げられます。教職課程を履修している学生も、教職の授業で学ぶ内容をより深く学んだり、より細かな課題について考えたりすることができるといってオススメです。

・心理学概論

開講期間：春 BC

成績評価方法：授業ごとの小テスト 20%、対面での期末試験 80%

令和 5 年度はオンデマンド型授業でした。毎回の授業がかなり専門的なので、気合いを入れて受講した方が良いでしょう。また、教科書は高価で分厚い上に、すべて英語で書かれてあるので、必要に応じて他の受講生とシェアし合う、先輩に借りなどすると良いでしょう。期末試験もある程度、授業内容を把握しておかないと、大変なことになるかも…。

・障害科学Ⅱ

開講期間：秋 AB

成績評価方法：授業ごとの小テスト 100%

令和 5 年度はオンデマンド型授業でした。動画視聴後には選択式の小テストを受けますが、授業内容としっかり見比べれば満点はすぐにとれると思います。様々な障がいについて知るとともに理解し、また障がい者に対して用意されてきた支援体制について知識を得ることによって、障がい者に対する考え方が変わってくるのではないでしょうか。

<生命環境学群>

・生物学序説

開講期間：春 A (ほかの期間にも同一の科目が開講しています)

成績評価方法：毎回の講義で課されるレポートまたは小テスト (manaba にて実施) 100%。

講義内容は生物の基礎的な内容から始まったため気軽に履修することができます。授業をちゃんと受けて真面目に課題に取り組めばよい成績はとれます。高校で生物を履修していなかったけど大学に入って生物を学びたいと考えている人はとることを強く勧めます。今後の生物系の授業における基礎が身に付きます。

・分子細胞生物学概論

開講期間：春B

成績評価方法：毎講義で課されるレポート（課題）または小テスト（授業中）60%、

期末テスト（持ち込みなしの対面、記述式）40%。

内容は生物の持つ細胞の構造とその役割が中心です。私と同じように高校の頃に生物を選択していなかった人でこの講義をとりたいと考えている人は必ず春Aで生物学序説を履修し、真面目に受けることを強くおすすめします。期末試験は講義内容を理解していればある程度点数は取れます。

・生物資源学に見る食品科学・技術の最前線

開講期間：春B C

成績評価方法：期末試験 100%

生物資源学類の先生が代わる代わる出てきて、自分の研究内容について発表してくれる、という形態の授業です。講義名の通り食品科学や食品加工の技術などに関する内容で、トマトやいちごに光を当てて吸光度を計測し安全性や糖度を測る研究や、フリーストライについての話があって、面白かったです。試験も対策をすれば難しくありません。

・生物資源の開発・生産と持続利用

開講期間：秋 AB

成績評価方法：ミニレポート 10%、期末試験 90%

食料や環境保全、森林・木材に関することや経済学などについて、それぞれを専門とする講師が授業をします。たまに予告なく授業内容に関する 1000 文字のレポートが出されることがあるので授業はしっかり受けましょう。期末試験は細かい内容も出題されますが、基本授業内容を押さえれば解くことができます。

・生物資源と環境

開講期間：秋 AB

成績評価方法：毎授業の感想 40%、期末試験 (manaba 上で実施) 60%

生物資源学類の 4 つの専攻コースから一人ずつ教員の方が自分の研究分野について講義をします。生物資源学類に興味はあるけど、どんなことを学ぶのかいまいちつかめない、という人にはお勧めです。期末試験は基本的な問いを出す先生もいれば細かな授業内容を出題する先生もいるので、授業メモはしっかり取った方がよいです。授業内容のみならず先生の雑談も魅力的で、履修して後悔することはないと思います！

・生物資源としての遺伝子とゲノム

開講期間：秋 AB

成績評価方法：毎回のキーワード提出 20%、期末試験 80%

遺伝子やゲノムとは何か、といった基本的なことから遺伝子やゲノムの有用性、実際の活用の例などを講義で扱いました。授業スライドは PDF で配布されず（配布される科目は多い）、全部ノート取ってくださいたいという授業スタイル。自分で取ったノートは試験に持ち込み可能なので、ちゃんと受けましょう！

・地球環境学 1, 2

開講期間：(地球環境学 1) 春 BC、(地球環境学 2) 秋 AB

成績評価方法：両方とも小テスト 100%

地球環境学 1, 2 を通じて地球学類の地球環境学専攻で学習できる学問分野を概観できます。その内容はマスマーブメントや砂の作る地形の変化やその解析などの理系的な内容から人文地理学などの文系的な内容までさまざまで、いろんな人が楽しめる科目だと思います。小テストは考えやすいものからとつつきにくいものまで授業によって異なりますが、総じて負担の少ない科目だと思うので、興味がある人はぜひ履修してみてください。

・地球進化学 1, 2

開講期間：(地球進化学 1) 春 BC、(地球進化学 2) 秋 AB

成績評価方法：(地球進化学 1) 小テスト 100%、(地球進化学 2) 期末試験 100%

地球環境学同様、地球学類の地球進化学専攻で学べる分野を一通り扱います。内容は、地球史、プレートテクトニクスや地震活動、堆積岩・火成岩・変成岩などの岩石に関すること、鉱物の結晶構造などになります。地球環境学とは異なり、こちらはほぼ高校地学の分野と言えます。ただ、ところによって化学や物理の知識も使うので、わからない部分があったら友達に聞いてみると思います。なお、地球進化学 2 の期末試験は資料参照可のオンライン実施でしたが、平均点が赤点すれすれという結果だったので、授業動画はしっかり見ましょう。

<理工学群>

・数学リテラシー 1

開講期間：春 A

成績評価方法：期末試験 100%

線形代数の基礎となる写像・行列の基本事項を学習します。初めての大学数学、ということで慣れるまで少々時間がかかるかもしれませんが、内容自体はその論理性を把握すればそこまで難しいものではありません。ただ、期末試験直前に一人ですべて詰め込める量ではないので、前もって友達などと試験勉強をすることをお勧めします。

・数学リテラシー 2

開講期間：春 B

成績評価方法：期末試験 100%

イプシロンデルタ論法という新たな概念での厳密な極限の扱い(収束、発散など)やベクトルや行列を用いた空間図形へのアプローチ(3次元)、データ・ミニマント(行列式)の計算方法などを学習します。例年数学リテラシー 1 より試験の平均点が低いです。高校数学の極限の範囲を復習すると理解の助けになります。基本はそれぞれの内容の論理の流れを押さええるのが一番大切だと思います。

・微積分 1, 2

開講期間：(微積分 1) 春 BC、(微積分 2) 秋 AB

成績評価方法：(微積分 1) 期末試験 100%、(微積分 2) レポート 20%、期末試験 80%

内容は高校微積分の延長です。ただ計算は高校の頃に比べて複雑になっています。気を抜かずにきちんと演習していれば高得点は狙えますが、怠れば足元をすくわれます。もっと詳しく言うとうと積分はより難しく、より高度な発想が必要となります。(でも練習すれば必ず身に付きます。安心してください。)微分は定義や極限に基づいた考え方を学び応用します。期末テストは授業内容をしっかりと理解して演習していれば心配ありません。

・線形代数 1, 2

開講期間：(線形代数 1) 春 BC、(線形代数 2) 秋 AB

成績評価方法：(線形代数 1) 小テスト 20%、期末試験 80%、(線形代数 2) 期末試験 100%

内容は数学リテラシー 1 で学んだ行列について詳しく学ぶといった感じです。数学リテラシーで学んだ内容をきちんと理解している必要があると思います。1 についてはややこしい行列計算になれることが求められますが、2 になると内容が少し抽象的になって講義内容の理解が難しくなります。しかしいずれも講義内容を理解してしっかり演習していれば単位はとれます。理工学群への移行を狙っている人や数学に興味のある人はぜひ履修しましょう。(期末テストの配分が大きいので一晩漬けて勉強するのはやめましょう。詰みます。)

・力学1～3

開講期間：(力学1)春B、(力学2)春C、(力学3)秋AB

成績評価方法：(力学1)レポート20%、試験80%、(力学2)試験100%、(力学3)レポート20%、試験80%。

力学1は高校物理選択者でもついていくのに労力を要したので、大学から初めて物理を習う人は注意が必要です。力学2は各単元の基本的な考え方を押さえたいれば試験で点数をとれると思います。力学3は慣性モーメントや非慣性系、波動方程式など高校では扱わない内容が出てくるので、その都度よく理解することが重要です。

・電磁気学1, 2

開講期間：(電磁気学1)秋A、(電磁気学2)秋B

成績評価方法：(電磁気学1)レポート30%、期末試験70%、(電磁気学2)小テスト10%、演習20%、期末試験70%

電磁気学1は基本的に高校内容を微分・積分を用いて厳密に扱う、という内容です。高校物理の知識があればその知識を微分・積分を用いてとらえなおす、ということができですが、高校物理を知らないとかかなり大変なので、分からないことがあったら物理選択の人に助けてもらいましょう。電磁気学2ではビオ・サバールの法則など高校ではなじみのない内容も扱うので、授業ごとにその分野を理解していくのが無難です。課題に関しては、電磁気学1, 2ともに令和5年度はオンデマンド授業で、毎週課題提出があり、それがなかなか難しいのでかなり苦労しました... 履修するのなら一緒に課題をやれる友達がいいた方がいい気がします。

・化学1, 2

開講期間：(化学1)春BC、(化学2)秋AB

成績評価方法：(化学1)、(化学2)期末試験100%

令和5年度の化学1, 2はともにオンデマンド授業でした。化学1は電子の波動関数、電子軌道、化学結合の理論など新しい内容が詰まっています。授業内容のすべてを理解するのは極めて困難です。化学2は試験とは別に出席(授業動画視聴)確認のためのミニレポートが毎週ありました。内容は有機化学で、前半は総論的、後半は各論的な授業でした。10回の授業で教科書の大半の内容を扱う、というなかなかハードな授業計画なので、順を追って計画的に理解を進めると試験前の負担が軽くなると思います。

・情報学群>

・情報メディア入門

開講期間：春A

成績評価方法：小テスト100%

情報メディア創成学類で扱う学問分野の中から5つトピックを取り上げて講義を行います。内容は「複雑ネットワーク」、「ユーザビリティ」、「情報の視覚表現技術」、「ロボティクス」、「プログラミング」といったところです。毎回課される小テストは授業で扱った事柄を問うものなので、授業をしっかり聞いていれば問題なく取り組みます。

・知識情報概論

開講期間：春A(秋ABにも同じ科目が開講されています)

成績評価方法：期末試験100%

知識情報・図書館学類で扱う学問分野の歴史的発展や、知識共有に関する概念などに関する内容を講義します。知識情報・図書館学類で学ぶことを知りたい人は履修してみるとよいかもしれません。期末試験は結構細かな授業内容を問う問題もあるので、要注意です。

・情報数学 A

開講期間：春 AB

成績評価方法：演習レポート 30%、期末試験 70%

情報学の理解に必要な数学の知識の基礎を学習します。集合、写像、論理演算〈子〉など数学リテラシーと被る内容もあったため、どちらでも受けていると定着がはかれまです。さらに真理値表や情報関係の知識も少しありました。日本語の言葉遣いに混乱することもありましたがそんなときこそ論理演算子です。期末試験は簡単ではありませんが授業をちゃんと受けていれば単位を落とすことはありませんし、かといって高得点を狙うのも厳しいです。

・プログラミング入門 A

開講期間：秋 AB

成績評価方法：毎回の課題で 60%、残りは発展課題、小テスト、期末試験の点数に応じて加算

Jupyter Notebook という Web アプリケーションを使ってプログラミングの基礎を学習します。扱うプログラミング言語は Python です。課題は一人で解決できないことも少なくないので、友達と一緒に取り組んだり、先生を頼ったりするのもありだと思います。

〈医学群〉

・医科生化学

開講期間：春 BC

成績評価方法：期末試験 100%

人体にまつわる生化学の基本事項を一通り学習します。内容は反応速度や糖・タンパク質の構造、解糖系・クエン酸回路など多岐にわたります。とにかく暗記量が多いので、授業動画をためるとしんどいです。医学類か医療科学類に移行したいのになければ履修は勧められません。春 C の試験期間は一般に試験科目が多くなるので、試験前に大変な思いをしなくて済むよう計画的に学習しましょう。

・医科分子生物学

開講期間：秋 AB

成績評価方法：復習問題レポート 10%、期末試験 90%。

生物学の遺伝子や DNA に関する分野や細胞伝達・細胞周期を学習し、主に様々な体内反応の分子機構を扱います。難易度は高校生物のやや上、といったところで高校時代に生物選択だった人にはそこまで難しくないです。逆にそうでない人は基本事項を一から覚えなくてはならないので医科生化学同様暗記量が多くなりますが、それらの項目の間に関連性や脈絡があり、まだ覚えやすいと思います。また、充実した授業資料や毎週の復習問題などもあり、比較的に計画的な勉強がしやすいです。試験時間も 120 分あるので焦って解く必要はなく、記述問題を考える時間も十分あります。

・医療科学概論

開講期間：秋 AB

成績評価方法：小テスト 100%

臨床検査技師について、それに必要な心構えや基本的知識（医学系でない人にとっては専門的知識）の授業です。他分野との関わりなどについての講義もあります。具体的には医療を提供する者としての心構え、医療の歴史などです。高校では学ばなかった内容ばかりのためとても新鮮でした。講義の中に実際に現場で働いている方によるリアルな吐露も少々あったりします。ここで注意が必要なのは manaba で小テストを行うのですが、この小テストの制限時間が短いため、講義資料を見返しながら小テストを受けることができません。講義内容を理解してから受けたいと思います。

・人体機能学

開講期間：春BC

成績評価方法：期末試験 100%

主に人体における内臓の生理的な機能について学習します。毎週違った臓器について扱うので、かなり内容が多いです。医科生化学や人体構造等と同じ期間に開講するので試験勉強がかなり大変ですが、授業で扱ったことのみが試験に出るので、しっかりと勉強すればそこまで難しくはありません。

・人体構造学

開講期間：春BC

成績評価方法：期末試験 100%

人体構造学では骨格や筋肉、感覚器官やその他内臓の構造について学習します。2単位分の授業で20回授業があるので覚えることが多いです。授業動画をため込むと詰みます。人体機能学同様授業で扱った内容を覚えれば試験で高得点を狙うことは可能です。

・基礎看護学概論

開講期間：春A

成績評価方法：レポート 20%、期末試験 80%

「看護とは何か」について学びます。内容は「ヒポクラテスの誓い」やナイチンゲールが作り上げた看護の体系、その後の発展など看護の歴史に関することや、看護が現行の制度でどのように規定されているか、といったことも扱いました。講義を通じて抽象的な話が多いので、つかみどころがないようにも思えますが、考えることが好きなから楽しんで受講することができると思います。期末試験は論述問題があり、自分の考えを問う問題も出題されました。試験勉強としては、どのような概念が重要なのか、その概念はどのような意味を持つのか、といったことを押さえて、それに対する自分の意見がある程度考えておくとうよいと思います。看護に関する講義ではありますが、医療系全般に通用する話も少なくないので、医療系を目指すことを考えている方は履修してみてもいいかがでしょうか。

・看護生命倫理

開講期間：秋B

成績評価方法：レポート 100%(20点レポ×5)

医療倫理に関する授業で、受けてためになる(勉強になった)と個人的には感じます。各レポートはそこまで分量は多くないですが、自分で調べて意見をまとめる必要がありそうです。自分のレポートを出すだけではなく、他の人のレポートを相互閲覧してコメントし合います。自分と違う意見に沢山ふれられるのは貴重だと思いました。

・高齢者看護学概論

開講期間：秋B

成績評価方法：期末試験 70%、振り返りシート・レポート 30%

オンデマンド形式で、授業の内容は、現在の超高齢社会の現状や、介護福祉の課題、高齢者に向き合う看護技術などについて。試験はほぼ過去問通りで、ちゃんと勉強すれば満点近くを狙えるマークシート方式でした。

学類紹介

文責
高野正志

総合学域群に入学された皆さんは、今後折に触れてどの学類に移行するかを考えることになると思います。そこで、それぞれの学類に所属している学生に学類の雰囲気や学修内容についてアンケートを取りました。移行先を考える際の参考にしてみてくだ

さい。

・掲載順

- 人文・文化学群
- 社会・国際学群
- 人間学群
- 生命環境学群
- 理工学群
- 情報学群
- 医学群
- 芸術専門学群
- 体育専門学群

・凡例：

1. …講義など大学生活でよく使うエリア
2. …学類の雰囲気や学修内容
3. …学類の良いところ
4. …学類の大変なところ
5. …総合学域群生へ一言！

<人文・文化学群>

・人文学類

1. 第1エリア
2. みんな真面目(1年)

人間や文化についての根源的な追究を行う。(1年)

「哲学・宗教学」、「史学」、「言語学」、「考古学・民俗学」の4つの主専攻があります。(2年)

3. 学べる学域の広さ(1年)

人間について根本的に問い直すことができるところ。(1年)

学類全体の人数が、文系他学類と比較しても多いです。(3年)

4. レポートが多いところ。考えるのがつかれる。(1年)

コースが細分化されすぎているため、他のコースの学生とのかかわりが薄いところ。

(3年)

5. 研究に没頭できます(1年)

人間の文化について深く追求したい人はぜひ人文学類へ(1年)

人文学類への移行を検討している方、コース決定はなるべくお早めに！(1年)

・比較文化学類

1. 第2エリア
2. 自由でいろいろな人がいる。「好きなものがある」人が多い(1年)
「華の比文」(比較文化学類生、とりわけ女子の華やかなイメージからついた言葉)という言葉の通り、おしゃれな人も多いですが、何だかんだオタク気質で、日常的に和装をしていたり、マニアックな日本文学の話題で盛り上がっていたりと自分の好きなものに一直線な変わり者タイプも多いです。(2年)
自分の代は専攻とかでかなり横のつながりが強い人が多いです。(3年)
3. いろんなひとがいる(1年)
幅広く色々なことを学べる(1年)
卒業要件の自由度が高いため興味のある授業を幅広くとることができる。(2年)
「比較文化」の手法だけでなく、その手法を用いた上で宗教学、哲学、文学、言語学、さらには情報学、芸術などにもアプローチできること！(3年)
4. レポートが多い(1年)
やりたいことがない人には自由すぎるかも(1年)
専攻が6領域17コースに分かれているため迷う(「比文迷子」と言われる現象らしい)&コースが細分化される分、各コースに所属する教員が少なく感じるかもしれない。(3年)
5. 比文こい！(1年)
「華の比文」らしいですけど名前だけかも…笑(1年)
比文ではどのような事柄でも学問に昇華できることが魅力です。興味関心のあることを比文でもっと掘り下げませんか？(1年)

・日本語・日本文化学類

1. 第2エリア
2. 学年や国籍を超えて和気あいあいとした穏やかな雰囲気です。(1年)
少人数であるため、学類内での学生の交流が活発で、クラス全体で仲が良い印象。必修科目や共通する履修科目があれば連絡を取り合い、協力して勉学に励む学生が多い。(2年)
日本国内にとらわれず、海外と日本や過去と現在とを比較する広い視点からの講義が多い。(2年)
学ぶ内容はもちろん日本語や日本文学が中心だが、日本語教育・言語学にも力を入れている。(3年)
3. どんな学生でも、受け入れるような学類独自の暖かい空気感がある。それがこの学類の一番素敵なおところだと思います。(1年)
対面によるテストもあるが、基本的に成績評価方法はレポートである。また、普段の講義における負担も少ないため、精力的にアルバイトやサークル活動に取り組むことができる。(1年)
他学類に比べ、国語科の教員免許を取得しやすい。(2年)
生徒数に対する教員数の割合が高く、学習面のサポートが手厚い。(4年)
4. 学類としての知名度が低く、総合学域群から移行した人数も少ない点。(1年)
教員数が他学類よりも少ないことが不便に感じることも。2年生の秋学期の演習(対面授業)の負担が重くて大変なところ。(2年)
5. 日日で待ってます！正直、どんなことでもできます。学びたいことを探しながら、大学生らしい大学生活を送りたいのなら日曜日がおすすめてです。(1年)
日日(日本語・日本文化学類)の授業は、専門的な知識がなくとも気軽に受けられるものばかりです。選択科目として頭の片隅に入れながら、日本語や日本文化全般に興味を持っていただけだと嬉しいですよ！(2年)

<社会・国際学群>

・社会学類

1. 第1エリア
2. 23生はクラスごとに遊んだり、選択授業のときに社会学同士で集まったりと仲間意識が強い。サークルやバイトも充実しており大学生らしい生活をしている人が多い印象。社会・法・政治・経済の基礎や教授の研究に近い専門的な内容について学ぶ。(1年)
- 経済史・政治史は、高校日本史世界史の発展に近い (2年)
- 騒がしい人と静かな人がいる。法、経済、政治、社会学を学ぶ。(3年)
3. 社会に強い関心のある推薦勢や学力の高い一般入試勢など意識の高い学生が多く、高め合って自分の力になる。(1年)
- 完全必修の授業が少ない (2年)
- 頭いいひといっぱい (3年)
4. テストが少ない代わりにレポート課題が多いので (専攻を決める際に必要な専門基礎科目2つ×4専攻のうち7つがレポート)、本を読んだりじっくり考えたりすることが苦手な学生には厳しい。(1年)
- 社会学主専攻を選ぶ場合、2年からゼミが始まる (2年)
- あほほど多いレポート。(3年)
5. 皆さんが大学で本当にやりたいことを見つけられるよう応援しております。(1年)
- 「現代経済史」オススメです (2年)
- がんばれ (3年)
- おいてよレポートの森 (3年)

・国際総合学類

1. 第3エリア
2. 賑やかな雰囲気で、学修内容は幅広く、他のいわゆる文系の学系の授業とは、少し異なる感じがします。(1年)
- 学ぶことが幅広く、自分の好きな分野に「国際性」を絡めて探求できるイメージ。(3年)
3. 政治・法、社会開発分野のみならず、経済学や情報分野などの幅広い学問が学べるので、様々なことを学習できる。(1年)
- 周りの意識が高いため、自分も勉強を頑張れる。授業を受ける中で広い視野を持った人間になれること。(4年)
4. 幅広く学べるがゆえに、自分の学びたいことを絞ることが難しい。(1年)
- 3年生の時に「独立論文」という卒論執筆の練習のようなものがあります。それが大変です。(2年)
5. 国際総合学類では、文系・理系問わずに様々な分野を学べることが魅力であると言えます。「国際」という言葉を広く捉えた下での学問がでてる学類ですので、是非とも興味を持ってくれると幸いです。(1年)
- 英語でできなくても大丈夫！みんなそれぞれ興味分野があって友達と話すことで知ることのできる事柄も多いです。(1年)
- プログラミングなどをしている人もいます。「国際」というより「総合」の方がその本質をよく表しているのではないのでしょうか。(1年)

<人間学類>

・教育学類

1. 第2エリア
2. 教育「学」について！教職は関係ありません。学校のあり方とか、AI教育、いじめ、受験、、、皆さんがこれまでの学生生活でなんか違和感のようなものを感じた制度は全て学問領域です(1年)
- みんな優しい。学修内容は教育方法や学校現場の諸問題、教育の海外比較など教育に関する事を広く扱います。(2年)
- 穏やか。人数が少ない分大体顔見知り。(3年)
3. 1学年34人と少なく、教授が多いです。クラスの団結力が高く、総合生も混ざって仲良くできているいい人たちが集まっています(1年)
- 先生や学生がみんな優しい。教職が取りやすい。(2年)
- 2A棟とかいうクンほど環境いい building (3年)
4. 教職志望の人は、教職単位を別で取る必要がありちょっと大変かな、、、(1年)取る授業によっては集中授業が多く土日がなくなりやすい。教職取るなら少し大変。(2年)
- 教育学類なのに教職課程が死ぬほど受けづらい、何なんこれ。(3年)
5. 教育を批判的に捉え直す、今まで受けてきたものを問い直す、めっちゃ大学っぽくない???あまり馴染みない分野だけど是非興味あったらおいで！移行バカ大変だけどお待ちします！(1年)
- 自分の通ってきた学校、教育について学生や先生と考えを深めていけるのでとても楽しいです！教員になりたい人もなる気が無い人も大歓迎です！(2年)
- なんとかなる程度に遊んでから、移行してきてください。そのほうがずっと遊んでいられます。(3年)

・心理学類

1. 第2エリア
2. 心理学は心を科学的に分析する学問で、文理問わずさまざまな視点から心について考えます。とにかく真面目で優しい人が多いです！(2年)
- 1年の間は専門的な勉強はあまりありません。心理学の基礎となる部分の勉強を中心にします。(2年)
3. 自由科目(必修以外のほかの学類の科目)を多くとれます。
- 心に関することなどなんでもできるところ。さまざまな分野の先生が揃っていて、やりたいことが見つかると思います。(2年)
- 現在オンライン授業が多いものもありますが、幅広い心理学の分野を学べる時間の余裕と講義数があります！優しい先生が多いので、わからない部分を聞くと親身に答えてくれます！(2年)
4. 実験と統計が大変です。また、総合からの移行枠がかなり少ないので、ちょっと頑張らないといけません…。(2年)
- 公認心理師科目は隔年一回開講のものもあるので、一つ単位を落とすと資格取得条件が失われる危険があることです！割と情報戦です！(4年)
5. 人間関係はスタートダッシュが大事です。とにかく人に話しかけて、タイミंगを見て趣味全開で行きましょう！きっと仲間が見つかります。(1年)
- ひとつの学類にとらわれるのではなく、自分の様々な可能性を探ってみてください！(2年)
- 専門的な勉強が始まるのは2年生からなので、総合から移行して2年生になってからも楽しく心理学を学べると思えます！応援しています！(2年)
- 心理学は人間に関することを深く学ぶということ、自分が人間である以上、汎用性が高い内容を学べる学問です。興味のある方は是非、いらしてください！(3年)

・障害科学類

1. 第2エリア
2. みんな優しくて穏やか。障害に関するあらゆることを学ぶ。(1年)
自身や家族が障害を持っている子も結構いる。そこも含め、違いを受け入れあって歩み寄り合うような雰囲気がいよい。(1年)
障害のある人々の体や心、彼らを取り巻く社会を理解し、福祉の追求や貢献を目指す学類。特別支援学校の教諭や社会福祉士になるための教育課程も選択可能。(2年)
雰囲気は、女子の割合が多く、皆の仲が良い感じです。障害者の教育や生活、福祉を、個々のスケールの視点から社会的な視点まで幅広く学べます。興味がある人にとってはおすすめです。(3年)
3. 学生が優しくて穏やかなところ。(1年)
びっくりするくらいみんな優しい。「こんな優しい人たちがいるんだ！」と入学当時感動した。(1年)
教授がとってもやさしい！基本どんな意見も受容される！否定されない！(2年)
同じ分野に興味がある人が集まっていて、分野もかなり狭いため、話が合う。(2年)
志が高い学生が多いので高め合える！研究室が幅広くて、やりたいと思った研究はかなり実現できるところ。(4年)
4. 授業が多い。学類を伝えると「忙しい学類じゃん！」って言われることが何回かあった。(1年)
障害の捉え方が難しい。発達途上な領域なので、考え始めたらしきりがない……テストよりレポートがメイン。(1年)
専攻内容が社会的に弱い立場の人について学ぶので、自分の中の偏見とか価値観とかと向き合わなければいけない機会が多いかも。(2年)
教職を取ろうと思うとかなり大変らしい、集中講義が多いからアンテナを張る必要がある！(3年)
障害科学ととっても、ケースバイケースなどところが多くあり、人はそれぞれ違いうで、何か一つの答えがあるというわけではないところ。人間について深く考える契機にはなるかもしれないです。(3年)

5. 人間学系に興味がある人にはオススメです！教育も心理も学べます！(1年)
障害科学類はあったけえぞぉ〜(2年)
アットホームな雰囲気なので、障害科学類に移行すれば先輩たちがたくさん助けてくれると思います！総合生は、1年間かけて自分の興味のある分野を探していいでしょう。(2年)
先生方が優しく、サポートも手厚いので学びたいことに挑戦できる学類です！！(4年)
＜生命環境学群＞
・生物学類
1. 第2エリア
2. 生態学・遺伝学・医学・系統学・社会生物学など、講義によってかなり特性が異なる(2年)
生態学から分子細胞生物学など幅広い領域をカバーする教員・研究室のみならず、農業科学や医学などの分野も充実している。(2年)
マクロな生物学からミクロな生物学まで、様々な学問的興味を持つ学生がいるため、比較的寛容で穏やかな雰囲気です。(3年)
3. 堅苦しくない(2年)
男女関係なく仲がいい！(2年)
生物学のほぼすべての分野をカバーしており、一部のコースを除いてカリキュラムの柔軟性が高い。自分の関心を尊重して学ぶことができる。(2年)
実験や実習が充実しており、実際に生物に触れて学びを深めることができる。(2年)
4. 実習や実験でかなり時間的な束縛を受けること。(1年)
暗記量やや多い(2年)
必修の概論6つと週3コマの基礎実験(秋Cは週2回6コマ)を同時にこなさなければならなかったのはかなりハードだと感じた。総合学域群生が2年次以降で通年の基礎生物学実験と専門科目・専門実験を並行して行う可能性を考えると、コンスタントにアルバイトやサークル活動を行うことは大変だと思う。(2年)
必修科目でも容赦なく単位を落とされることがある。(4年)

5. 実験が多くなって大変ですが、解剖は結構楽しいですよ！必修の概論系の授業は全部対面でのテストがあるので頑張ってください！(1年)

基礎生は友人と協力しましょう！ムラサキメダクサの実験には覚悟を持って挑みましょう(2年)

高校で物理を選択された方々の中には、生物学は覚えることが多く、とつつきにくい学問だと思われる方もいるかもしれません。しかし、研究で対象とする生物学は、物理や化学、数学などの自然科学に則って行われるものです。総合学域群で1年間幅広く勉強した皆さんに適した学類・分野であると思います！(2年)

・生物資源学類

1. 第2エリア
2. 好奇心旺盛な人が多い印象。研究したいことがみんな様々で、自由で寛容な雰囲気。(1年)
生物、化学、工学、経済とコースがあり、いずれも植物に関連しています。(2年)
女子が特に多いわけではないけど男女問わず仲が良くて個人的にはほんわかしたイメージ。(3年)
名前の似ている生物学類とは混同されがちですが、農業関連、環境保全や食品科学など、より実践的、実務的なことを学べるのが特徴です。(4年)

3. 男女比が五分五分かつ、資源開講の対面が多いから授業を通じて仲良くなりやすいところ。(1年)
仲が良く、学生の面倒をちゃんと見てくれる教授がたくさんいる。(2年)
実習から座学まで幅広く、楽しいです□(2年)
いわゆる農業・生物系から化学・工学・社会経済学まで幅広い分野と授業があるのて、学類内でもいろいろなつまみ食いができる。実験や研究は人間の都合だけじゃ回らないがこの学類です。(4年)

4. AB開講の科目が多く、テストが集中しがちです…！(2年)
意外と必修科目が多いところ。実験レポート(主に化学)が死ぬところ。(1年)
実習になると大学から少し離れた場所に移動しなければならぬところ。(2年)

5. 資源は楽しい実習や実験も多く、学類の友達がたくさんできます！教授も先輩もみんなとてもいい人ばかりです！資源サイコーーーーー！！(1年)

・地球学類

1. 第1エリア
2. 仲がいい(1年)
文理問わず、地球について様々な方面から学ぶことができます。3年時に気象、水文学、地理などの地球環境学と、地層・岩石・火山などの地球進化学の2つの主専攻に分かれます。学類はアットホームな雰囲気で、交流も積極的にを行っています。(2年)
分野によってやることが相当違う(地質、地理、大気など)(3年)
みんな色んなところに速出するのが大好きです。オタク気質も兼ね備えている。(3年)

ざっくり言うと、地理と地学を足して宇宙分野を引いたような内容を学べる。気象予報士志望の人を筆頭に、「何かに特化した人」が多いのですがいいなあと思いついていきます。(3年)

3. 人数が少ない分、同じ学年の人や先生達との交流が強いと思う(3年)
生徒同士の交流が活発。(3年)
巡検(実際にその場所に訪れて調査)があるのていろいろなところに行ける機会が多いこと！(4年)

4. 勉強しに来てる人が多くて大変(1年)
3年で行う学術論文をまとめる発表が大変かも(3年)
巡検という野外実習ではお金と体力が持っていけます！(3年)
5. 学べることは地球上の全て！一緒にフィールドに出て地球の謎を解き明かしませんか！(2年)

分野が幅広い分、自由度が高く、融通も聞きやすいと思うので、自由に好きなことをやりたい人にはおすすすめだと思う(3年)
人と、大地と、自然と関わるのが好きなら地球において！(3年)

<理工学群>

・数学類

1. 第1エリア
2. 学類内での機嫌の繋がりがあまり無いので、仲の良い数人で行動したり、他学類の人と関わっている人が多いです。1年次は数学を基盤として、物理学類・化学類・地球学類の授業を取っている人が多い印象を受けます。教職科目を取っている人は学類の約半分です。(1年)
- 学生は、やはり高校数学が好きだった人が多い。教員は、案外わからないことに対して親身に答えてくれる。(2年)
3. 数学類が開講している授業は1限がないらしいので、期が弱い人には優しいと思います(教職課程履修者を除く)。ワイワイ系の学類ではないので、雰囲気は落ち着いています(個人的に良いと思います)。(1年)
- 数学は、実験や他者との対話なくとも自分だけで真理へ到達できるので、フットワーク軽く学べる。(4年)
4. 扱う内容がかなり抽象的なので、理解するのが難しいです。そのため、学類同期に勉強仲間を作れると良いのかなと思います。高校数学教員免許を取るために数学科に入ったこともあり、高大間の数学のギャップに悩まされています。(1年)
- 独学の比重が高く、授業で分からないことがあるまま一旦先へ進むことを余儀なくされることがしばしばあること。(2年)
- 女子の少なさは覚悟した方がいい。女子学生が自分一人になる、という可能性も十分に。(3年)
5. テストができれば何でもいいので意外と暇です。まあでもギリギリの点数の人が多くいんですけどね…大学院に進学する人が少ないのでそこまで点数にはこだわりのないようです。(1年)
- 大学に入って数学の教員免許が取りなくなったら、数学についてもっと詳しく勉強したくなった人は、ぜひ数学類への移行を検討してみてください！(1年)

・物理学類

1. 第1エリア
2. 楽しい雰囲気です(1年)
- 静かに授業を聴いている(1年)
- 卒業後は、約8割が大学院進学、残りは企業就職や教員・公務員の道に進んでいます。(1年)
- 物理学全般について学べ、4年生では「素粒子・宇宙・原子核・物性・生命・プラズマ」などの広い分野から好きなものを選んで研究ができます。それぞれの分野で理論の学習と実験を両方行えるので、さらに幅広い選択肢があります。(2年)
- 学生の物理に対する姿勢は本当に様々で、○○理論を完成させるんだ！と宣言する、物理学に選ばれたような人から、将来物理学を教えたい教員志望の人、僕のような物理を勉強していて楽しかったからといった緩めの理由で選んだ人など様々です。
3. いろいろな人がいる所(1年)
- 私の代は女子が多いらしいです(1年)
- 理論物理学と実験物理の双方を体験できるため、興味のあるものが見つかりやすいと思います。(1年)
- 物理学を学び研究することで、日常の解像度が上がります。人生を豊かにするツールの一つを学べるのがよいところ。(3年)
- ある授業で学んだことを他の授業で使ったり、色々組み合わせることで問題を解くことができるので、物理の力がついているのがわかりやすい。(4年)
4. 数学が理工学群の他の学類と違うので少し難しい所(1年)
- 私は勉強が苦手なこともあり、数学や物理のテスト勉強が重い科目が多いと感じる！(2年)
- 実験のレポート作成が割と大変ですね(慣れますが)。あとは、自分で参考書を買って自学自習するスタイルが基本となるところです。(3年)
- コッソコ計算したり想像したりする能力がないと苦勞します。(4年)

5. 広い視野を持って移行先を決めてください！(1年)

高校物理とは全く別ものを学ぶので高校物理だけが好きな人にはきつく感じられることもあるかもしれません！また、高校物理と数学の知識がないときについてす！あってもきつついです！(1年)

物理学は科学の根底にある原理です。物理学なしに科学も工学も語れません。だからこそ、とても複雑で抽象的な概念も扱うため難しいですが一層世界の美しい部分を観ることが出来ると思います。蓋を開けてみれば地味な座学や実験ばかりですが、その物理学が世界を説明する原理であること、そして人文的営みであることに気づけばすぐに魅了されてしまうでしょう！物理学類への移行お待ちしております！(3年)

・化学類

1. 第1エリア

2. 少人数なので仲は良い。1年のうちは専門的なことはあまり学ばない。(1年)
1年生では自然科学の基礎(数学、物理、化学、生物、地球科学)を学ぶ。2年生からは専門的な内容(物理、化学、無機化学、有機化学、生物)を学ぶ。(2年)
純粋な化学を一通り学習します。応用化学をイメージされるところとちょっと相違があるかもしれません。理学です。(3年)

3. 教授との距離が近い(1年)

化学のプロフェッショナルになれる。(3年)

事象の本質を理解できる。大変すぎて絆が深まる。学類の中で仲良くなりやすい。大学院に進学しやすい。就活不利にならない(日本が化学強いから)。(3年)
忙しい中でうまく手を抜いてスケジュールに緩急をつける力や同学類の仲間と助け合う力が身につく。学類の人数が少なく、学類全体で知り合いになれる。(学年不詳)

4. 1年の必修が多い(1年)

3年生は毎週9時間実験で毎週実験レポートを提出しながら講義や課外活動をこなさなければならぬので特に大変です。講義もほぼすべて通年なので秋Cモジュールに全く休みがありません。(3年)

課題の締切前とテスト前はかなり忙しく、学ぶ内容もそれなりに難しいところ。特に3年次の実験レポートは覚悟すべきだが、それが化学系の宿命でもあるらしい。クリスマスは余裕があるが、バレンタインは来ない。(3年)

5. 2年生から実験が始まって楽しくなるのは是非化学の道へ！(1年)

通年で授業がある科目ばかりで秋Cも大変です。夏休み・春休みが始まるのも選いですね…(2年)

化学のことが大好きでしようがないくらいの人がよくモチベーションを保てるくらいの環境なのでなんとなく入るのはやめた方が良いでしょう。逆に化学が大好きな人には最高の環境です。化学オタクみたいない人も結構多いです。(3年)

・応用理工学類

1. 第3エリア

2. みんな仲良く、明るい感じ。数学や物理の授業がほとんど。(2年)

物理・化学・数学と多くの理系科目を勉強するので、幅広い分野に進むことができる。120人規模の学類であるため知り合いがたぐさできる。(2年)
男子が9割、授業後に授業の内容を友達同士でディスカッションしたり、課題を一緒にやったりする。(4年)

3. 人数が多くて同じ学類の人の友達が多いこと(2年)

低学年で数学・物理・化学・生物など幅広い分野を学べる。3年次から選ぶ専攻も幅広いので自分に合ったものを選びやすい。(3年)
理系科目のほとんどを網羅するため、将来の就職先が幅広くなる点。(学年不詳)

4. テストが多いこと。最初から専攻に分かれなないため成績が悪いと好きなどに行けないこと。あと三年まで体育取らないといけないこと。(2年)
一回の試験だけで単位をとれるかどうかが決まりやすい点。(3年)
必修科目が他の理工系の学類に比べて多いところ。(4年)
5. 総合生は自分の進路を考えつつ、授業をとって2年生から学類に入るので結構大変そうなお印象があります。(2年)
入学時点で自分がどの理系分野が得意か、どの領域に進みたいかはっきりと決まっていない人にとっては、じっくりいろんな教科を学べる時間があるのでおすめの学類です！(3年)
応理は1年生の時が一番大変ですが、その分自分の専門性が見えてくるので頑張ってください！(4年)
- ・工学システム学類
1. 第3エリア
 2. 2年生がキツイ(1年)
まじめ(1年)
男ばかり 物理と数学の内容がほとんど(2年)
スポーツ工学・医療工学・エネルギー工学など幅広い「工学」に関する知識を学ぶことができる学類。指定科目を履修することで建築士や施行管理技士などの資格を取得することもできる他、JABEE 認定されているため国家資格である技術士の資格を取りやすい。(2年)
 3. ほぼ男だからファッションにそこまで気を遣う必要がない(1年)
興味の方向が同じ仲間ができる(1年)
工学全般を広く学べるところ。実際にものづくりができる授業があるところ。(1年)
線形代数をしっかり勉強できるところ(2年)
就職がいろいろいい？(2年)

4. 評価方法がテスト1発勝負のところ(1年)
線形代数が大変なところ(2年)
勉強大変 基本的に筆記試験による評価ばかりなのでちゃんと勉強しないと単位取れない 特に線形代数総論(2年)
エシスは、他学類と異なり、JABEE(日本技術者教育認定機構)に登録されているため、進級が難しい。(3年)
 5. サークルにたくさん入るべし(3つとか)！！出会い多いぞー(1年)
工学システム学類は大変って言われているのに、移行してくる気持ちと努力を尊敬します！！エシスへようこそ！！一緒に頑張ろう！！！！線形代数総論がなんぼじゃ！！！！(1年)
移行希望先としては人気が高い方であるため、移行するのが難しいかもしれない。しかし、将来的には他分野の知識を自分の専門分野に活かすことができる魅力がある学類であるため、是非移行先として検討してほしい。(4年)
1年間、大学生という立場で学類選びができるのは貴重だと思うので、色々なことに目を向けられたらいいのではないかと思います。(2年)
授業は移行できる範囲が広くなるように取った方がいい！(2年)
研究室配属の際、GPAの値が重要になるので、GPAが低いと大変。学年が上がることにはしは減る。(3年)
- ・社会工学類
1. 第3エリア
 2. 活発で明るい人が多いですが、都市計画主専攻の人は真面目な人が多い印象です。授業などの忙しさは選ぶ専攻や建築士の受験資格などを取るかどうかなどによりますが、他の理系学科よりは比較的取り組みやすい学習内容だと思います。(3年)
実践的な授業が多い！現地視察、グループワーク、発表は日常茶飯事(4年)
実務で活躍しているいろんな方の話を講義で聞く機会がある。とにかく実践的な授業が多い！(4年)

3. みんな明るく活動的なので、The 大学生な生活が送れること間違いないです！さらに勉強面に関しては頭のいい人やモチベの高い人も多く、良い刺激になっています。(3年)

よくウェィな学類と言われるけど、それだけ縦や横のつながりが強い！(4年)
先生を交えた公式の飲み会やイベントが開催される。演習を通して、学類の人と仲良くなれる。(4年)

4. 建築士試験の受験資格や教員免許を取りたい人はその分多くの単位をとる必要があるため、少し大変です。しかし、一般的な授業はそこまで難易度が高くないので、真面目に授業を受けていれば大丈夫だと思います。(3年)

特に都市計画主専攻はグループワークが多く、時間外労働が多い(4年)
都市計画主専攻はグループでの演習が多くて大変(4年)

5. 統計学とプログラミング入門はとっておきましょう。2年になったら割とこれを前提として授業が行われます。取っていないか自分ば苦勞しています。(2年)
社工はめちゃくちゃ楽しい学類なので是非来てねー！！(3年)

大学生活4年間は本当にあつという間です。やりたいこと全部やって卒業しよう！(4年)

ぜひ社会工学類へ、そして都市計画主専攻へ(4年)

<情報学群>

・情報科学類

1. 第3エリア

2. - 学類の雰囲気

他の学類に比べて落ち着いた人が多い気がする。コンピュータ詳しい人いる。

- 学修内容

簡単にいうと、コンピュータサイエンスが学べる。

さらに、コンピュータサイエンスを学ぶ上でのツールとして、プログラミング、数学、物理を勉強する。詳細は学類ホームページの授業時間割を参照ください。(3年)

3. 良い意味で変わった人が多い(2年)

研究室が豊富、情報工学/情報科学における研究分野は大体カバーしてる。情報系なので学問の功利性は高い。就活における学校推薦も豊富。(3年)

4. わからない点を自分で調べることが多大に要求されるため、それに自信がない場合苦勞すること。学べる範囲が広い分、興味のない分野もある程度は勉強する必要があること。(2年)

毎週レポートが多い(2年)

女子少ない(3年)

5. プログラミング初心者もたくさんいます(2年)

学類はよく考えて決めた方がいいです。研究室もチェックした方がいいです。その後の人生が大きく変わります。似た領域である理工学群の各学類に比べて単位は取りやすいです。自由に使える時間が多いので、好きな勉強ができます。(3年)

・情報メディア創成学類

1. 春日エリア

2. 学べることは、情報系の学問とコンテンツ制作、「メディアアート」などのクリエイティブな領域があります。学問面以外の特徴は、意欲的な人が多く、刺激がもらえること。春日エリアが他学類活動範囲から遠い点も特徴。(2年)

経い、応用寄り(ゴリゴリのコンピュータサイエンスは少なめ)(3年)

学生が少人数であるため、基本的に同学年は全員顔と名前を覚えている程度になる。授業は情報学の基礎からデザインなどの芸術寄りのものまで様々であり、自分の進路に合わせて選べる。(4年)

3. 経い、試験が少ない、ブラッくな研究室が少ない(体感)(3年)

学類全体で、ほどほどに仲が良いところ。ただし、学年を超えた交流はあまり活発でないように感じる。(3年)

自分の進路にあった授業を選ぶことができ、様々な技術を学べる点。(4年)

4. 2年の必修科目(プログラミング)が鬼のように厳しい、本学まで行くのが手間(3年)
- 専攻の選択が4年次からのため、専門的な勉強を始めるタイミニングが難しい。(4年)
5. 大学での学びは学問だけではありません。沢山学んで、沢山遊んでください。「始める勇氣」と「辞める勇氣」を持つことで大学生活はより充実したものとなりますと思います。(2年)
- コンピュータで面白いことをやりたい人にはオススメだよん(3年)
- 総合学域群はいろいろな学類の特徴をのぞけるチャンスだと思うので、じっくり悩んで、自分に合った学類に入れるように頑張ってください。(4年)
- ・知識情報・図書館学類
1. 春日エリア
2. 穏やか(1年)
- 学年にもよるかもしれませんが落ち着いてる方が多い印象です！(2年)
- 文理融合で文系出身、理系出身の学生が半々つくくらい在籍しており、図書館に関する知識だけでなく、統計やプログラミング、法制度、哲学など情報に関する様々な知識を得ることが出来ます。幅広く多角的に学べることから、理系の方はもちろんですが、特に文系から情報系に進みたい人にはぴったりの学類であると思います。(2年)
- 本が好き、図書館が好き。プログラミングが得意。情報表現、流通、活用に興味があ。というように多様な学生が多いと思います。個性豊かな学生とそしてそれを尊重し合う風潮があり、毎日新鮮でとても楽しいです。(3年)
- 図書館だけではなく、情報に関することを幅広く学べる(4年)
- 本当に色んな人がいます。情報系にも精通してるため、「図書館」という学類名に引っぱられず、理系の学生も多いイメージ。(4年)

3. どんな人でも自分の居場所を見つけれること(1年)
- とにかくなんでもできる。卒論のテーマが幅広い(2年)
- 先生方が学生想いで、授業や大学生生活・就職等において手厚いフォローがあること。
- おかげで生活や授業が充実している。(3年)
- 学類内に読書好きが多いため、本の話が盛り上げられるところ。楽単(楽に単位を取ってできるといわれている科目)が多い印象。(3年)
- なんでもできる！(4年)
4. 文系理系どちらからも入学できるため、文系の学生は理系の授業に苦戦することもある。(1年)
- 色々なことができる分、幅広い領域を学ばなければいけない(2年)
- 自分の得意不得意がはっきり分かれている人にはちょっととしんどいかもしれない。(2年)
- プログラミングが必修(4年)
5. 自分の行きたい学類にいけるよう最大限努力して頑張ってください！(1年)
- 筑波大学の中で1番色々な分野を学べる学類だと思っているので、自分の将来やりたいことが明確な人はもちろん、明確でない人にこそおすすめめの学類です。知識ていろんなこと学んでそこからやりたいたいことが見つかるのではないかと思います。(1年)
- 総合学域群、大変なことも多いと思いますが楽しんでください！(2年)
- 情報について多角的に学ぶことが出来るため、私は知識情報・図書館学類に入ってきてよかったと心から思っています。幅広く学べること、将来性のある学問分野であること、皆さんの興味を存分に満たすことができるはず。お会いできる日を楽しみにしています！(2年)
- 「図書館」という名前に囚われず、ぜひ選択肢に入れてほしいです！(4年)

<医学群>

・医学類

1. 医学エリア

2. 真面目かつ面白い！(1年)

勉強するときは全力で勉強して、遊ぶときは全力で遊ぶ人が多い印象です。自分を持っている人たちが多くのように思います！全員がほぼ同じ授業をとるので学類全体で仲がいいです！(5年)

1～3年までの間に免疫学など医学の基礎的なものから、各部位の疾患を扱う臨床分野までを学びます。4年生で受験するCBT後に臨床実習が始まり、実際に患者さんと接するようになります。学年全体で授業を受けることが多く、縦のつながりが強いのも特徴です。(6年)

3. 試験が大変なこともあって、あまり会話したことない人とも気持ちを共有することが出来る。(1年)

医師になるという同じ目標に向かってみんな頑張れるところ。(3年)

先生方との距離感が近く、他学類とは違って2年生以降は専門科目を学年のみんなを受講する形になるので、学類内での学生同士の距離感も近い。サークルや部活にとらわれずに友好関係を築ける。(5年)

4. テストがとにかく大変(1年)

ほぼ毎日1～5限に授業があること。実習でさらに時間が延びることもしばしば。(2年)

勉強量。医学類では基礎医学9科目+臨床医学18科目+社会医学を1年～3年で学習し、全ての試験に合格することが進級の条件(追試はそれぞれ1回まで)。臨床実習に入ってからからも勉強をつづけ、M6では総まとめとして臨床医学の全科目を試験する。(4年)

5. 一緒に頑張りました！(1年)

人との繋がりを大切にするのが医学類での学生生活のポイントだと思います！！(2年)

医学類に移行するのは大変と聞きますが、目指している人はぜひ頑張ってください！応援しています！！(3年)

医学類は逆境に強い人に向いています。試験や授業の遅刻などで失敗したときに、いかにメンタルを持ちなおせるかが大事になると思っています。(4年)

・看護学類

1. 医学エリア

2. 9:1で女子が多い学類！みんな優しいし、毎日女子会みたいで楽しい～1年生ではオンデマンド授業が多いけども、2年生からは対面がバンバン入るらしい…(1年)

真面目な人が多い。ほぼ全て必修なので基本的にサボる人がいないです。レポートや記録物もびっしり書きがち。学習は高校までの知識はほとんど必要ないです。置いてかれるとかないかも。(3年)

3. みんなかわわいい!!! おふざけは置いておいて、団結力があるから有用な情報(出席の締め切りとか)をよく流してくれます！あとは、みんな優しいから質問とか聞きやすいのもいいところかな(1年)

みんなで同じ授業を受けるから過去問共有されているところ。5年分くらいあるよ。(3年)

医療系に興味がある、看護師資格に興味がある、人とかかわり方について学びたい人など、様々な目的を持った人がいる。(学年不詳)

4. 進級条件が他学類に比べて厳しい！厳しすぎる！カリキュラムがしっかり組まれている関係で、必修科目などを落としてしまうと即留年が確定しちゃいます…その分、同期や先輩との団結力が強まるんですが、毎回のテストに留年がかかっているのは本当に緊張する… (1年)
- 毎年進級判定があり、ひとつでも単位落としたら留年決まるのでプレッシャーがある。基本的に試験だったら追試で救ってくれます。(3年)
- 必修で卒業単位が決まるので自由な履修はしにくいことと、それに付随して春C、秋C、夏休みや春休みに実習があることです。(4年)
5. 気経において！とは言いつらい学類だけでも、「人間の健康」について様々な角度から学べる素敵な学類なので、やる気があればぜひ選択肢に入れてみてくださいね！ (1年)
- 人に直接触れて助けたい、人の心や体を深く知りたい、という人にオススメです。他学類とは異なり、1年次にすべての必修をとれるので、2年次から全く遅れをとれません。また、筑波の看護は「看護師にならない」という選択肢も歓迎しているので、色々やりたい総合生に特にオススメです。(2年)
- 総合から移行してきた人たちも学習面で置いてかれることはないし、履修登録とか就職は楽なのでぜひ！ (3年)

・医療科学類

1. 医学エリア
 2. 基本みんな真面目 (1年)
- 女子が多い。国試を受けるなら必修の実習(実験)が多くて大変。総合から移行するとかなりの量の科目をこなす必要があり2年生はかなり大変。病院・病気・各種治療や検査など臨床的な医療について学べる。神経科学や免疫、人体の構造と機能など人体に関する科目も多い。ヒトに関する生物学を学んだり研究したりしたいなら生物学類ではなく医療科学類を選ぶべき。神経科学、免疫、睡眠、がん、ヒトの分子生物学といった分野においては生物学類より選べる研究室が多い。(3年)

3. 人数が少ないので仲がいい、テストはみんなで協力しあうので比較的楽 (1年)
- 必修科目が多いがテストが比較的簡単(過去問が先輩から引き継がれている)、人数が少ないのでみな和気藹々としている。(3年)
- 実習が多く、様々な実験を行える。(学年不詳)
4. 2年生からすごく大変になるらしい (1年)
- 必修科目が多い。3年次に国際医療科学主専攻を専攻した上で国試を受けるのなら、研究室に通いながら多くの実習(実験)をこなすため忙しい。国試を受けない選択肢ももちろんあります！ (3年)
- 実習が多い分、レポートの作成が大変。試験100%評価の科目ばかりなので、勉強が大変。付け焼刃だと厳しい。(3年)
5. いりょーかに入りょーかー？ (1年)
- 忙しい学類だというイメージがあると思います。専攻と国試の有無によってはかなり大変なのは本当です。でも他の理工学系の学類みたいな難しいテストはあんまりないんじゃないかと思ってます。ひたすら暗記したら単位は取れます。国試受けずに研究に専念する事もできるので、自由度が高くてやりたい事を目指せる学類だと思います。実際に私は国試を受けません。ヒトに関する生物学に興味がある人はぜひ！！ (3年)

＜芸術専門学群＞

1. 体育・芸術エリア
 2. 自主制作など、各自のやりたいことに熱心に取り組んでいる人が多いイメージです。入学前からとんでもないキャリアを積んでいる人もちらほらいます。(1年)
- 割とのんびりほっこりしている。専攻決定が3年なのでそれまでは専攻問わず色々な授業をとる。そのため専攻問わず仲良くなれる。意外と思われが、絵を描けない人が多い。(3年)
- 他者に寛容でおおらかな人が多いイメージ。個性豊かだけど、美大ほど変人だらけではない。
- 学習内容は領域によって全く違う。絵を描いたり立体物を作ったり文字を書いたりパソコン使ってデザインしたり美術史を学んだりなど…。(3年)

3. 色んな領域の座学や演習授業が開講されていて、必ず1つは自分が取りたいと思うような授業があると思います。(1年)
- 油画、彫刻などのファイン系から工芸、デザイン、写真などなんでもできる。授業によってはやったことない分野でもその人のレベル感に合わせて指導してくれるので絵が下手とか初心者という場合でもやりやすい。テストが少なく、制作物やレポートが多い。その場合、何かしらを期限内に出して、授業にそれなりに出ていければ単位が出る。制作好きな人だと半分期間もないもので単位でるので楽しい。おしゃべりな人が多い気がして見てて楽しい。(3年)
- 3年になるまではいろいろな授業を受けて自分に合った領域を考えられる。制作で手を動かして楽しい。授業によっては作品提出だけでテストもレポートもなし！(3年)
4. 課題制作が大変です。授業時間外での活動になるので、他学群と比べてサークルやバイト、自主制作との両立が難しいです。(1年)
- (主に構成、デザイン系の話ですが)制作系の授業では主に授業中は講評のみ、制作は各自時間を見つけて制作という形になるので結構大変。制作が忙しい時期と余裕がある時(あまりない……)の差が激しいのでシフト制のバイトがしにくいAdobe製品等の使い方は基本的に独学になると思う。(一応使い方の授業はあるがそれ以前に別の授業で必要になる可能性が全然ある)講評ではそれぞれの作品を前に張り出して色々言われるので、メンタル弱い人注意。作るものによっては材料費が高む。幅広い経験がでける反面、美大と比べると専門分野の制作が少ないのでデザイン系に就職したい場合は授業外で自主的に制作を行い、ポートフォリオを作っていく必要がある。連絡やお返事がゆっくりめな先生が多い。(3年)
- 制作が終わらなくて焦ることが多い。徹夜する話もよく聞く。課題をやるために材料費がかかる。領域によっては卒論と卒制の両方をやらなくてはいけない。(3年)
5. 芸専来てねー！(1年)
- 何故か怖がられがちな芸専ですがビビらず授業とってみてくださいね！(3年)
- 入学後の今からでも芸術を学べるのは筑波大に来たからこそです。興味があったら是非芸専に来てください！(3年)

- く体育専門学群 ※体育専門学群のみ移行対象外となります※>
1. 体育・芸術エリア
2. 賑やかで楽しい(1年)
- みんなフレンドリーで、楽しみながら体育・スポーツについて専門的に学ぶことができる。(1年)
- 各種目で全国の有名選手がいる。スポーツに対する熱意がすごい。(1年)
- 全国からトップアスリートが集まってくる。スポーツと絡めて様々な学問を学ぶことが出来る。(2年)
- 活発で明るく、元気な学生が多い！(3年)
3. 日本代表など、スポーツのスペシャリストと友達になれる。(1年)
- 様々な競技において実績のある人が多いので、良い刺激がもたえられる。(1年)
- スポーツに関心のある人は幅広い分野を学べるところ。(2年)
- 施設が充実している！先生方も元トップレベルの選手の方が多いので、レベルの高い授業を受けます。(3年)
4. 部活、バイト、勉強の切り替え(1年)
- 授業や講義で学んだ内容を専門競技にどのように活かしていくか。(1年)
5. 大学生生活楽しもう！(1年)
- 自分の興味・関心のままに様々なことにチャレンジしてください！(1年)